

令和6年度
事業報告書



丸亀市社会福祉協議会

公式キャラクター「オルデ」

社会福祉法人 丸亀市社会福祉協議会

目 次

総括	1
I. 地域共生社会推進グループ	2
1. 地域づくり推進事業	2
(1) 地域福祉活動計画推進事業（丸亀市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画）	
(2) 重層的支援体制整備事業に向けた準備事業	
(3) 生活困窮者支援等のための地域づくり事業	
(4) 子ども食堂等居場所づくり事業	
(5) 生活支援体制整備事業	
(6) 地区コミュニティとの連携	
(7) 丸亀市社会福祉大会受託事業	
(8) 「ファミマフードドライブ」からの支援	
2. ボランティア活動推進事業	19
(1) ボランティアセンター事業	
(2) ボランティア保険の加入促進	
(3) ボランティア活動の推進	
(4) 「第12回ふくしフェスティバルまるがめ」の開催	
(5) 珠洲市災害ボランティアセンターへの職員派遣	
(6) 令和6年度災害時の協働・連携体制強化研修	
3. 地域サポート事業	27
(1) 車いす貸出事業	
(2) 体験グッズ・イベント機材貸出事業	
(3) 育児用品貸出事業	
4. 丸亀市ファミリー・サポート・センター事業	29
(1) 年度別会員登録者数	
(2) 活動実績	
(3) 講習会の開催	
(4) 会員交流事業	
(5) イベント等への参加	
5. 共同募金助成事業	33
(1) 移動販売支援事業（買物支援事業）	
(2) 世代間交流支援事業	
(3) 災害備蓄資材整備事業	
(4) 災害用バンダナ配布事業	
(5) 「愛の広場」の開催	
(6) 自治会活動推進事業	
(7) 地域歳末たすけあい配分事業	
6. 社会福祉関係団体との連携・支援	37
(1) 丸亀市が包括連携協定した笹川スポーツ財団の取組に参加	
(2) 丸亀市共同募金委員会事務局の運営	
(3) 丸亀市民生委員児童委員協議会連合会事務局の運営	
(4) 丸亀市福祉ママ会議連合会事務局の運営	
(5) 丸亀市身体障害者福祉連合協会事務局の運営	
(6) ねんりんクラブ丸亀（丸亀市老人クラブ連合会）事務局の運営	

重点項目

重点項目



重点項目	7. 生活困窮者自立支援事業（丸亀市自立相談支援センターあすたねっと）	42
	（1）自立相談支援事業	
	（2）家計改善支援事業	
	（3）住居確保給付金相談	
	（4）助け合い金庫貸付事業	
	（5）生活福祉資金貸付事業	
	（6）生活福祉資金特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）	
	（7）丸亀市無料専門相談事業	
	（8）香川おもいやりネットワーク事業（おもいやりネット丸亀）	
重点項目	8. 成年後見推進事業（後見センターまるがめ）	56
	（1）法人後見推進事業	
	（2）市民後見推進事業	
	（3）福祉サービス利用援助事業	
	Ⅱ. しおや保育所の安定経営	63
	1. 通常保育	63
	（1）在籍児童数の状況	
	（2）土曜保育の状況	
	2. 特別保育	64
	（1）一時預かり事業	
	（2）延長保育事業（有料）	
	（3）障がい児保育事業	
重点項目	3. 地域貢献事業	65
重点項目	4. 多文化共生事業	66
重点項目	5. しおや保育所あり方検討	66
	（1）しおや保育所リーダーミーティングの開催	
	（2）保護者会との連携	
	Ⅲ. 介護事業グループの安定経営	68
重点項目	1. 介護保険事業	68
	（1）指定訪問介護・第一号訪問事業（ホームヘルパー）	
	（2）指定居宅介護支援事業（ケアマネジャー）	
	（3）介護予防支援事業（介護予防ケアマネジャー）	
	2. ホームヘルプサービス事業	69
	（1）老人ホームヘルプサービス事業	
	（2）子育てホームヘルプサービス	
	（3）介護保険外訪問介護サービス事業	
重点項目	3. 障害福祉サービス事業	70
	（1）居宅介護事業（障がい者ホームヘルパー）	
	（2）重度訪問介護事業（障がい者ホームヘルパー）	
	（3）同行援護事業（視覚障がい者ガイドヘルパー）	
	（4）移動支援事業（ガイドヘルパー）	
	4. 研修会の実施・参加	71
	5. 福祉サービス苦情解決事業	71

重点項目	Ⅳ. 経営企画グループ	72
	1. 福祉人材の育成と確保	72
	(1) ふくし出前講座	
	(2) 実習生等の受け入れ	
重点項目	2. 持続可能な法人運営	72
	(1) 助成金の状況	
	(2) 寄付金の状況	
	(3) 会費収入状況	
	(4) 自動販売機による財源確保	
	(5) 積立資産と繰越金の状況	
重点項目	3. 強化発展計画の振り返りと今後の取り組み	77
	(1) 内部プロジェクト委員会の開催	

令和 6 年度事業報告

総 括

令和 6 年元日に発生した能登半島地震から早 1 年半が経過しようとしています。被災地では復興まちづくり計画、住まいの再建など復旧・復興に向けた見通しが立てられ、少しずつですがその歩みを進めているところです。本会では、昨年度に引き続き、珠洲市で開設された災害ボランティアセンターへ 3 名の職員を派遣し、被災者とボランティアをつなぐ、マッチングなどの支援をしました。また県内では東かがわ市で、記録的な大雨となったことは記憶に新しいところであり、本会では中讃ブロック圏域の市町及び社会福祉協議会と合同で「災害時の協働・連携体制強化研修」をひまわりセンターで実施しました。一方地域では、多様な生活課題を抱えた世帯は今もなお増加しており、既存の制度が特定のニーズに応えられず、支援が届かない、いわゆる「制度の狭間」に陥る人々への支援が急務となっています。本会では「みんながつながり、みんなで支え合い、誰もが安全に安心して暮らせるまち丸亀」という基本理念のもと、思いやりのある福祉のまちを目指して、関係機関や行政と協働して事業を推進しました。

地域共生社会推進グループでは、丸亀市から包括的支援体制構築業務を受託し、令和 7 年度から開始される重層的支援体制の実施に向けた準備事業を市と連携しながら進めました。また継続して地区民児協定例会及びコミュニティ役員会に参加し、そこで得た課題や地域の困りごとを職員間で共有し、課題を検討する会議を設けました。地域との関わりを大切にし、地域における生活課題や福祉課題について相談しやすい体制ができました。

生活困窮者自立支援事業では、生活困窮者に対する自立相談支援事業、家計改善支援事業を受託し、様々な生活課題や福祉課題を抱えた相談に応じ、関係機関と連携を図りながら自立に向けた支援に取り組みました。また住宅確保給付金相談では、離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方に対し、就職に向けた活動をするなどを条件に、一定期間家賃相当額の給付を受けられるよう相談支援を行いました。

成年後見推進事業では、司法・医療・福祉等の地域連携体制を構築し、行政機関、関係機関等及び専門職と意見交換、協議を行うことを目的に、市からの委託事業として丸亀市成年後見制度利用促進協議会を開催し、その運営に努めました。

しおや保育所では、城坤地区の保育所・幼稚園などとの「四園交流活動」を行うとともに、地区の民生委員と連携して「地域の高齢者を招待したクリスマス会」による多世代交流活動を実現することができました。

介護事業グループでは、新たな加算体系のもとで「処遇改善加算Ⅰ」を取得し、職員の処遇改善に取り組むことができました。また職員によるスマートフォンでの活動記録入力が定着し業務の効率化を図ることができ、経営改善の兆しが見えてきました。

経営企画グループでは、コスト削減を念頭に置き、業務全般にわたる見直しに努めるとともに、新たに社協の P R と収益確保のため、オルデのフィギュア作成に取り組みました。また、県社協・市町社協とともに、金融機関との「遺贈寄付」に関する協定を締結しました。

職員同士が互いに認め合い、尊重し合うことで、本会の使命である「ふだんの暮らしを支える輪をつくる」ことを目標に掲げ、今後も全力で取り組んでまいります。

I. 地域共生社会推進グループ

1. 地域づくり推進事業

(1) 地域福祉活動計画推進事業（丸亀市地域福祉計画・地域福祉活動計画）

本事業の第三次計画は4年目を迎え、基本理念である「みんながつながり、みんなで支え合い、誰もが安全に安心して暮らせるまち丸亀」の実現に向けて、継続して包括的・重層的な支援体制づくりを重点項目として、その取り組みを進めてきました。地区民児協定例会及びコミュニティ役員会に地区担当職員が参加し、福祉の情報発信のほか地域住民の困りごとに対し、本会で対応が困難な場合は他の支援機関につなげるなど連携に努めました。

また、令和8年4月からはじまる第4次計画の策定に向けて、より住民のみなさんの声や意見を反映した計画にするために、令和7年1月から3月にかけて、各地区コミュニティで「住民座談会」を開催しました。令和7年3月26日には、企業連携見守り協定事業者にも参加を呼びかけ、各地区コミュニティ住民座談会の特徴などの報告の後、中学校区単位で支え合いの地域づくりの推進を目的として意見交換や発表を行う、全体会を開催しました。

①第三次計画目標指標の状況

項 目	目標	R5	R6
①住民参加による地域ネットワーク会議の開催数	270回	278回	354回
②自立相談支援センター「あすたねっと」の認知度	10.0%	—	—
③福祉情報を入手できている住民の割合	30.0%	—	—
④ふくし出前講座開催数	30回	26回	31回
⑤ボランティアセンターマッチング件数	50回	68回	54回
⑥災害時避難行動要支援者名簿の平常時開示の同意率	75.0%	83.6%	83.5%
⑦ふれあい・いきいきサロン開設数	150カ所	123カ所	125カ所
⑧情報ほっとメール登録者数	5,000名	3,878名	3,889名

※②、③は市民アンケート（R7実施予定）での評価となる。

②第四次計画へ向けての住民参加座談会の開催

月日	地区コミュニティ名称	月日	地区コミュニティ名称
R7. 1. 25	川西地区地域づくり推進協議会	2. 26	ふれ愛の町ひろしまをつくる会
1. 26	住みたくなるまち土器	3. 1	飯山南コミュニティ協議会
1. 26	岡田コミュニティ	3. 2	富熊校区コミュニティ協議会
1. 28	港、ふれあいのまち城乾	3. 9	明倫の里 城北
1. 29	飯山北地区コミュニティ推進協議会	3. 14	郡家校区地域づくり推進協議会
2. 9	“やすらぎと生きがいのある町 たるみをつくる会”	3. 16	ふれ愛の町みなみ
2. 13	本島地区地域づくり推進協議会	3. 23	栗熊コミュニティ
2. 14	ふれあい城坤	3. 26	全体会（連携企業含む）
2. 16	飯野地区地域づくり推進協議会	3. 27	天守閣のある町城西

重点項目 (2) 重層的支援体制の実施に向けた準備事業

本会では、地域共生社会の実現を目指すため、令和7年度から開始される重層的支援体制の実施に向け、その準備を進めてまいりました。令和6年度は、「包括的支援体制構築業務」として「重層的支援会議等の試行を通じた多機関の協働による包括的支援体制構築業務」、「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の試行等」、「参加支援事業に係る調査の実施」を丸亀市から受託し、市と連携を図りながら、その準備に取り組みました。

① 重層的支援会議等の試行を通じた多機関の協働による包括的支援体制構築業務

複合的な課題を抱える相談者を支援するため、多機関協働事業として相談を受付けた事案が2ケースありました。相談者から同意をいただいた後、アセスメント及びプランを作成し重層的支援会議を開催しました。試行錯誤しながらプランを作成しましたが、既存の相談支援機関等の機能を可能な限り活かしつつ包括的な支援の具体化を目指し、多機関と連携を図りながら相談者の生活課題が少しでも好転するよう努めました。

また事業趣旨説明及び広報啓発活動における各関係者への研修会を3回実施しました。様々な分野の方々にご参加いただき、地域共生社会の実現や重層的支援体制整備事業についての講演の後、事例をもとにグループワークを行いました。単独では解決できない課題に対して、多機関で取り組むことができるよう顔の見える関係づくりを大切に、それぞれのグループで意見交換を行いました。本会の役割として、既存の相談支援機関をサポートし、複雑な課題を抱える世帯との調整役を受け持ち、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定めるなど、重層的支援体制を推進していく上で中核的な役割を担っていくよう努めていきます。

【令和6年度 重層的支援体制整備事業研修会】

日 程	場 所	研修内容	参加人数
R6. 7. 24	マルタス	○題目「地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制の整備ーそれぞれの役割と期待ー」 【講師】日本福祉大学 学長 原田正樹 氏	100人
R6. 11. 25	ひまわりセンター	○丸亀市における重層的支援体制整備事業について 【説明】丸亀市健康福祉部福祉課 重層支援準備室 ○事例検討から考える重層的支援体制整備事業とは 【コーディネーター】 高松市障がい者基幹相談支援センター センター長 川村 圭 氏	75人
R7. 3. 3	飯山総合保健福祉センター	○相談受付の流れ 【説明】丸亀市健康福祉部福祉課 重層支援準備室 ○地域共生社会の実現に向けて 重層的支援会議について 【アドバイザー】 琴平町社会福祉協議会 会長 越智 和子 氏	57人

② アウトリーチ等を通じた継続的支援事業の試行等

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業とは、特定の分野に限らず全市民を対象とした複合課題や狭間の課題を抱えながらも、必要な支援が届いていない人や支援につながることに拒否的な人に支援を届ける事業です。本会では、「なんでも相談受付表」を新たに作成し、地域住民

や民生委員・児童委員、団体などからの相談を受け、必要に応じてアウトリーチを行いました。また、市内で障がい者をサポートする相談支援事業所と連携を図るためにアウトリーチについてのヒアリング（聞き取り調査）を行い、実態把握に努めました。今後、重層的支援体制を推進していくために、様々な課題を抱える本人や世帯と継続的に関わるための信頼関係構築や、本人とのつながりづくりに向けた支援を行ってまいります。なお「なんでも相談」を受け、アウトリーチを行った件数は17件ありました。うち民生委員・児童委員からの連絡が10件あり、一人暮らし高齢者の安否確認や認知症高齢者の不安、近隣とのトラブルなどがありました。また新聞販売店や配食サービス事業所など企業からの安否確認が3件、その他近隣住民から施設を利用している児童についての相談や車いすの相談などがありました。

③ 参加支援事業に係る調査の実施

参加支援事業とは、対象者と支援メニューのマッチングを行い、双方の定着支援や社会資源の開発、また制度の狭間にあり既存のサービスでは対応できない人の社会参加に向けた支援を行う事業です。本人や世帯が、地域や社会との関わり方を選択し、自らの役割を見出すために多様な接点を確保することを目的として、市が社会参加応援パートナーを募集したところ、企業や社会福祉法人、NPO法人などを中心に11団体から申し込みがありました。それぞれの団体に実態調査を行ったところ、どの団体からも社会との接点が希薄な方に対する社会参加の場の提供に前向きなご回答を得ることができました。引き続き応援パートナーを募集するとともに、必要に応じて参加支援事業にご協力をいただく予定です。

(3) 生活困窮者支援等のための地域づくり事業

① たすけあいサービス事業（共同募金助成事業）

コミュニティが主体となって、その地域の実情に合わせた体制でお互いを助け合うサービス（たすけあいサービス）を行っています。同じ地域に住む住民同士で、ちょっとした困りごとを支え合うことで、住み慣れた地域で高齢者などが安心して暮らすことのできる仕組みづくりを行っています。飯山南及び飯山北地区では、安定したサービスとして根付いています。

実施地区	飯山南	飯山北
名 称	住民参加型の福祉事業「法の郷ささえ愛」	たすけあい飯北
開 始 日	R3. 11月～	R3. 4月～
対 象 者 (登録制)	飯山南在住で、概ね65歳以上の一人暮らし世帯、高齢者のみの世帯等	飯山北在住で、概ね65歳以上の一人暮らし高齢者、もしくは高齢者夫婦世帯
利用料金	1回500円（30分）以降30分毎に500円	1回500円（30分）以降15分毎に250円
利用実績	延べ20日22名（派遣人数延べ30名）	延べ64日68名（派遣人数延べ68名）
主な 支援内容	○庭の草刈り・草抜きなど 17件 ○溝掃除 1件 ○センサーライト取付 1件 ○その他 ブロック塀補修等	○掃除及び雑用 37件 ○会話 8件 ○買物 13件 ○その他 エアコンフィルター清掃、照明器具取付 など

②小地域ネットワーク活動事業（地区担当制）

小地域ネットワーク活動として、地域住民が集まる会合に参加し、地域共生社会の構築や重層的支援体制整備事業に関する情報をお届けしました。また地区民生委員児童委員協議会や地区コミュニティの役員会に参加し、本会から情報を発信するだけでなく、地域の課題を聞き取り、社協内部で検討したり、他の機関と連携するなど課題解決に向けた取り組みを行いました。

また今年度は、丸亀市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画（みんなのふくし丸亀プラン）の策定に伴い、各地区コミュニティで住民座談会を開催しました。より住民の皆さまの声や意見を反映した計画にするために、丸亀市の未来のために必要なことや、みんなでできることなど、グループごとに自由に意見交換を行うワークショップを実施しました。年度末には、座談会の総まとめとして初めてとなる全体会を行い、各地区の代表者から活発なご意見をいただきました。

情報交換会（小地域ネットワーク会議）

（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 乾	3	城乾	1	飯山南	1	岡田	1
						合 計	6

地区民児協定例会

（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 北	12	郡 家	12	広 島	12
城 西	12	垂 水	12	本 島	11
城 乾	12	川 西	12	綾 歌	12
城 坤	12	飯 野	12	飯 山	12
城 南	12	土 器	11	合 計	166

コミュニティ役員会（一部の地区では、連合自治会に参加）

（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 北	6	垂 水	11	岡 田	8
城 西	11	川 西	9	栗 熊	11
城 乾	-	飯 野	-	富 熊	11
城 坤	6	土 器	6	飯山南	6
城 南	11	広 島	5	飯山北	11
郡 家	-	本 島	-	合 計	112

生活支援体制整備事業

（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 乾	14	岡 田	4	飯山南	2
郡 家	7	栗 熊	3	飯山北	6
飯 野	6			合 計	42

まちづくり委員会（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 西	5	土 器	1	飯山北	2
城 坤	1	広 島	1	合 計	10

住民座談会

（単位：回）

地 区	回 数	地 区	回 数	地 区	回 数
城 北	1	垂 水	1	岡 田	1
城 西	1	川 西	1	栗 熊	1
城 乾	1	飯 野	1	富 熊	1
城 坤	1	土 器	1	飯山南	1
城 南	1	広 島	1	飯山北	1
郡 家	1	本 島	1	全体会	1
				合 計	18

③高齢者友愛訪問活動事業



（ア）一人暮らし高齢者友愛訪問花鉢プレゼント事業（共同募金助成事業）

民生委員・児童委員の協力のもと、丸亀市内在住の一人暮らし高齢者（70歳以上）の誕生日に訪問活動を行いました。誕生日に応じた季節の花をプレゼントし、顔の見える関係を大切に、高齢者が孤立しないよう状況把握に努めました。

【対象者数3,316名】 ※前年度3,394名

（単位：名）

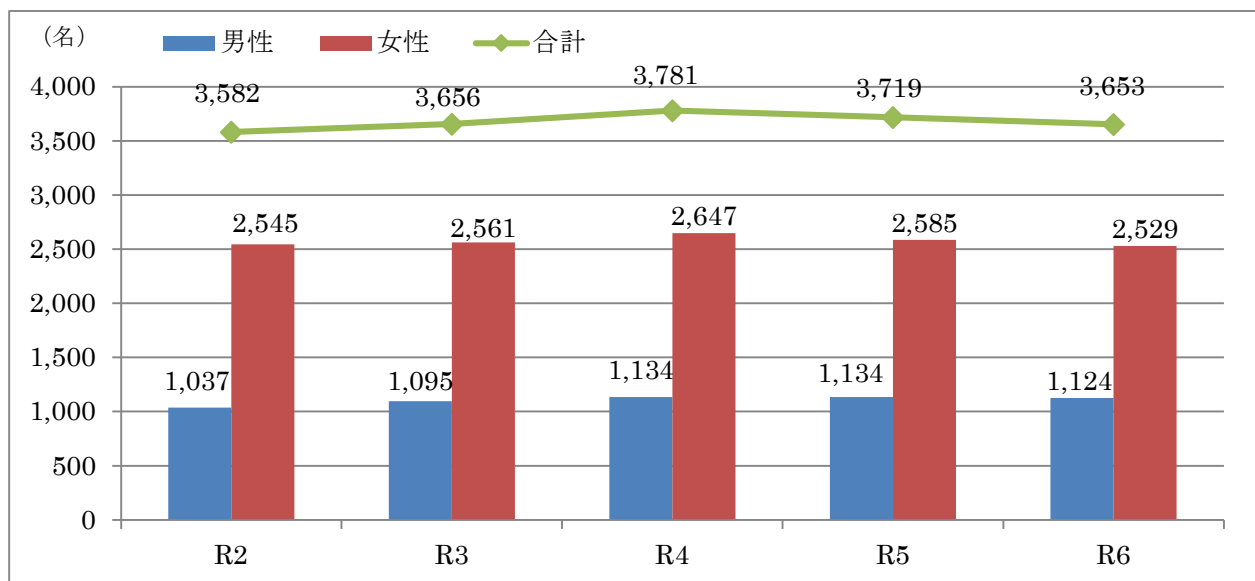
月	花の名称	対象者数	月	花の名称	対象者数
4月	パンジー2種・ヒオラ	270	10月	マリゴールト・なでしこ・金魚草	234
5月	ネメシア・マリゴールト・ペチュニア	213	11月	パンジー・フユスズ・なでしこ	289
6月	ベコニア2種・マリゴールト	226	12月	パンジー・フユスズ・アリッサム	223
7月	トレニア2種・インパチェンス	246	1月	プリムラ・ヒオラ・アリッサム	386
8月	ベコニア2種・日日草	287	2月	プリムラ・フユスズ・アリッサム	323
9月	ベコニア・日日草・マリゴールト	277	3月	プリムラ・ヒオラ・アリッサム	342

（イ）一人暮らし高齢者実態調査（70歳以上） 1回：令和7年2月1日～2月28日

【令和6年度調査分】民生委員・児童委員調査

（単位：名）

地区	性別	男	女	計	地区	性別	男	女	計	地区	性別	男	女	計
城北		146	267	413	郡家		89	219	308	広島		23	33	56
城西		54	166	220	垂水		20	48	68	本島		15	33	48
城乾		71	173	244	川西		44	115	159	綾歌		101	214	315
城坤		159	391	550	飯野		27	59	86	飯山		169	354	523
城南		84	188	272	土器		122	269	391	合 計		1,124	2,529	3,653



(ウ) 在宅寝たきり高齢者友愛訪問（60歳以上）（共同募金助成事業）

福祉ママの協力により、丸亀市内の在宅で介護を受けている寝たきり高齢者の友愛訪問活動を年2回実施しました。対象となる世帯が地域で孤立しないよう、きめ細やかな支援活動に努めました。

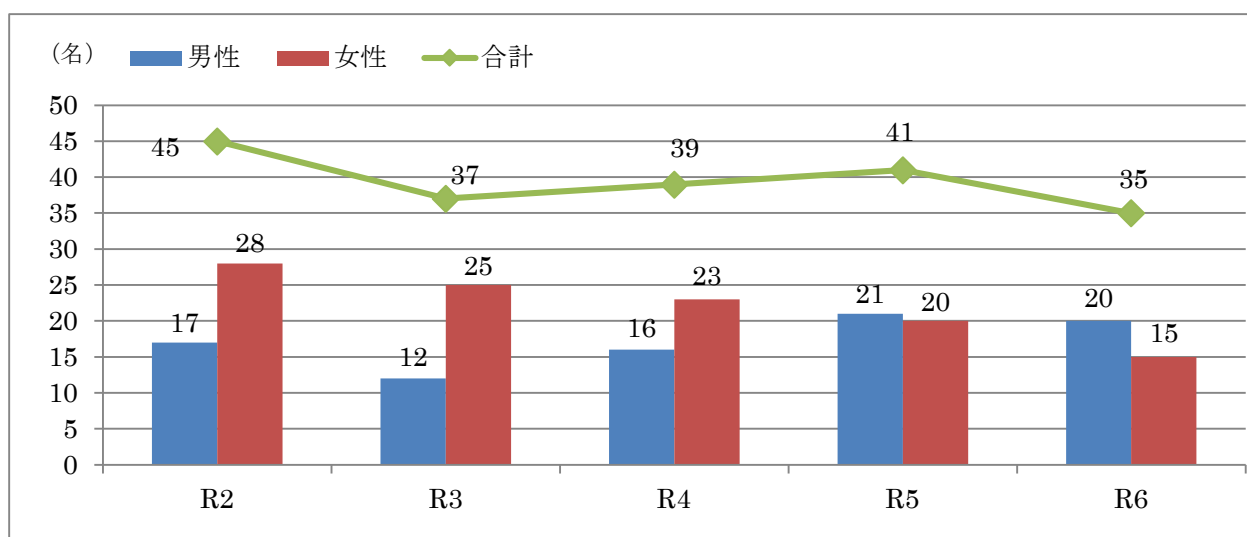
【対象者数延べ75名】 ※前年度延べ87名 (単位：名)

年 月	内 容	対象者数
R6. 7	60歳以上在宅寝たきり高齢者友愛訪問（上期）	40
R7. 2	60歳以上在宅寝たきり高齢者友愛訪問（下期）	35

(エ) 在宅寝たきり高齢者実態調査（60歳以上） 2回：令和6年6月・令和7年1月

【令和7年1月調査分】福祉ママ調査 (単位：名)

地区	性別	男	女	計	地区	性別	男	女	計	地区	性別	男	女	計
城北		1	2	3	垂水			1	1	岡田		3	1	4
城西		2	2	4	川西			1	1	栗熊			1	1
城乾		2		2	飯野		1		1	富熊		3	1	4
城坤		2		2	土器		1		1	飯山南		2	2	4
城南			1	1	広島			1	1	飯山北		1		1
郡家		2	1	3	本島			1	1	合計		20	15	35



④企業連携型巡回見守り活動事業

地域の異変にいち早く気付くことのできる仕組みづくりとして、企業・丸亀市民生委員児童委員協議会連合会・本会が三者協定を結び、地域の見守り活動を行いました。

本年度は新たに２社と協定し、協定締結企業数は２９社２組合（組合所属２４社）、あわせて５３社となりました。また例年開催している企業連携型巡回見守り活動事業連絡会は、住民座談会の全体会として協定締結事業者を招き、丸亀市の未来について企業として地域に協力できることなど活発なご意見を賜りました。

協定締結事業者

	協定年月日	事業所名
1	平成23年 3月23日	四国新聞販売店会「四国会」
2	平成23年 8月 5日	読売センター丸亀・飯山
3	平成23年11月25日	四国電力送配電(株)丸亀事業所
4	平成23年12月16日	朝日新聞サービスアンカー丸亀
5	平成25年 3月29日	香川ヤクルト販売(株)
6	平成26年 4月 9日	(株)丸亀給食センター
7	平成27年 7月 2日	生活協同組合コープかがわ
8	平成30年 3月19日	あいおいニッセイ同和損害保険(株)
9		香川県農業協同組合
10		損害保険ジャパン日本興亜(株)
11		損保ジャパン日本興亜保険サービス(株)
12		東京海上日動火災保険(株)
13	平成30年 8月16日	ヤマト運輸(株)香川主管支店
14	平成30年 8月30日	三井住友海上火災保険(株)
15	平成30年10月17日	四国ガス(株)丸亀支店
16		中讃ケーブルビジョン(株)
17	平成30年11月19日	医療法人社団健仁会介護老人保健施設すこやか苑
18		アーチ(株)

19	令和元年 7月30日	香川県石油商業組合丸亀支部（18社）
20	令和元年 7月31日	西日本自動車共済協同組合香川県支部
21	令和元年 8月 2日	日本プロパンガス㈱
22		丸亀タクシー組合（6社）
23	令和元年 8月22日	琴参バス㈱
24	令和 2年 7月 7日	第一生命保険株式会社東四国支社
25	令和 3年 9月28日	㈱英
26	令和 3年11月26日	㈱フジ フジグラン丸亀
27		四国アルフレッサ㈱
28	令和 5年 2月24日	株式会社明乳松浦
29	令和 5年 4月28日	株式会社アスティス香川営業部
30	令和6年10月9日	株式会社幸燿
31	令和7年1月30日	株式会社セブン・イレブン・ジャパン

企業連携型巡回見守り活動事業連絡会

日 付	内 容	団体数・人数	場 所
R7. 3. 26	丸亀市第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に係る「住民座談会（全体会）」	9団体・12名	ひまわりセンター 飯山総合保健福祉センター



協定調印式（株式会社 幸燿 様）



住民座談会（全体会）

⑤生活支援配食サービス事業

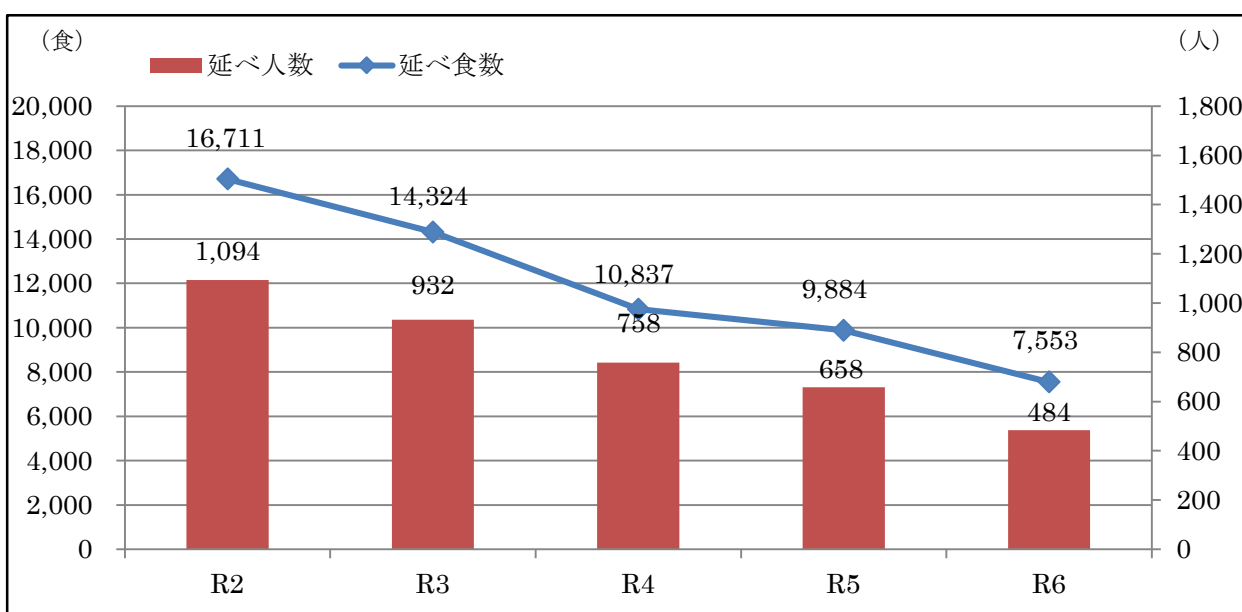
㈱丸亀給食センター（医療食・高齢者食のミール）と配食と見守り活動を合わせた事業として本事業を委託し、週5日を限度とした昼食配達を行いました。広島では、広島デイサービスセンターに業務を委託し、サービスを実施しています。

配達員がお弁当を手渡しすることで利用者の異変に気付くことができ、本会に連絡をいただくことで民生委員・児童委員と一緒に職員が安否確認をするなど、高齢者の見守り活動に寄与しました。

利用状況と配食数

(単位：名／食)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要件①	人数	22	22	19	17	17	16	16	14	13	12	11	11	190
	食数	285	280	256	254	235	245	239	207	186	160	161	179	2,687
要件②	人数	26	27	26	24	25	17	15	25	26	25	27	31	294
	食数	423	446	408	414	412	375	392	371	367	391	397	470	4,866
計	人数	48	49	45	41	42	33	31	39	39	37	38	42	484
	食数	708	726	664	668	647	620	631	578	553	551	558	649	7,553



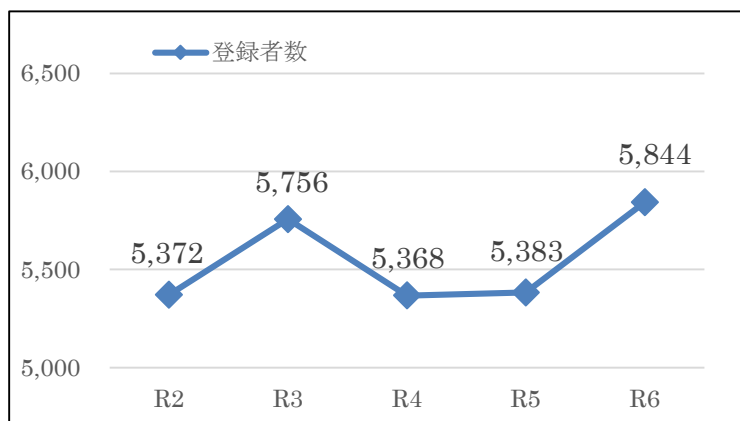
⑥救急医療情報キット配布事業

急病やケガで急に体調が悪化するなど、もしものときに迅速な救急活動ができるよう、民生委員・児童委員の協力を得て、健康に不安のある方等を対象とした救急医療情報キットの無料配布を行いました。利用者情報は市防災課と共有し、緊急時対応の強化を図っています。

地区別登録者数

(単位：名)

地 区	登録者数	地 区	登録者数	地 区	登録者数
城 北	694	飯 野	148	栗 熊	202
城 西	349	川 西	359	岡 田	338
城 乾	470	土 器	472	富 熊	208
城 坤	751	垂 水	130	飯山南	240
城 南	485	広 島	177	飯山北	459
郡 家	339	本 島	23	合 計	5,844



⑦ふれあい・いきいきサロン整備事業

高齢者等が気軽に参加することのできる身近な地域の居場所として「ふれあい・支え合いの場づくり」を推進しました。新たに活動を開始したサロンもあり、少しずつではありますがサロンに賑わいが戻り、地域におけるふれあいの場が甦ってきました。気心の知れた仲間とお茶を飲んでのんびりと過ごすことで、介護予防や引きこもりを防ぐ効果があります。参加者同士が顔を合わせることで、お互いの状況を自然に確認できます。高齢者等の生きがい、介護予防の一環として、今後もサロンの輪を市内全域に広がっていきます。

交流・研修会の開催

(単位：名)

日 付	内 容	参加人数	場 所
R6. 4. 17	令和6年度 上期研修会 「気をつけよう夏の熱中症対策」	51	ひまわりセンター
		38	飯山総合保健福祉センター
R6. 10. 25	令和6年度 下期研修会 「地域の取り組み。心を扱うには相談し合うことが大切」	44	ひまわりセンター
		34	飯山総合保健福祉センター



上期研修会（熱中症対策講座）

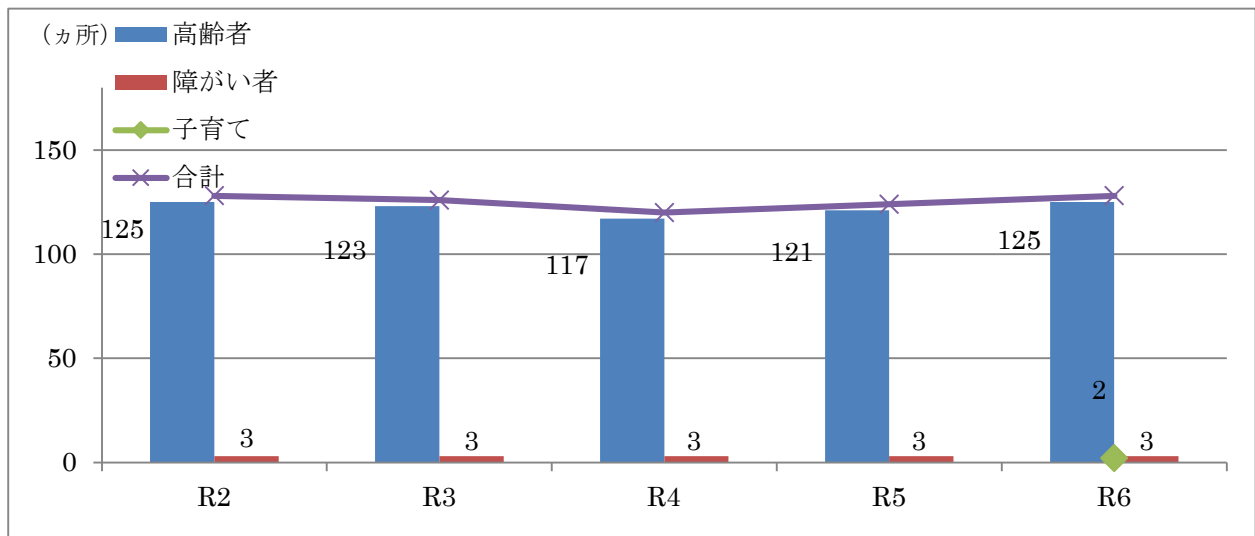


下期研修会（相談することの大切さ）

地区別実施状況

(単位：カ所)

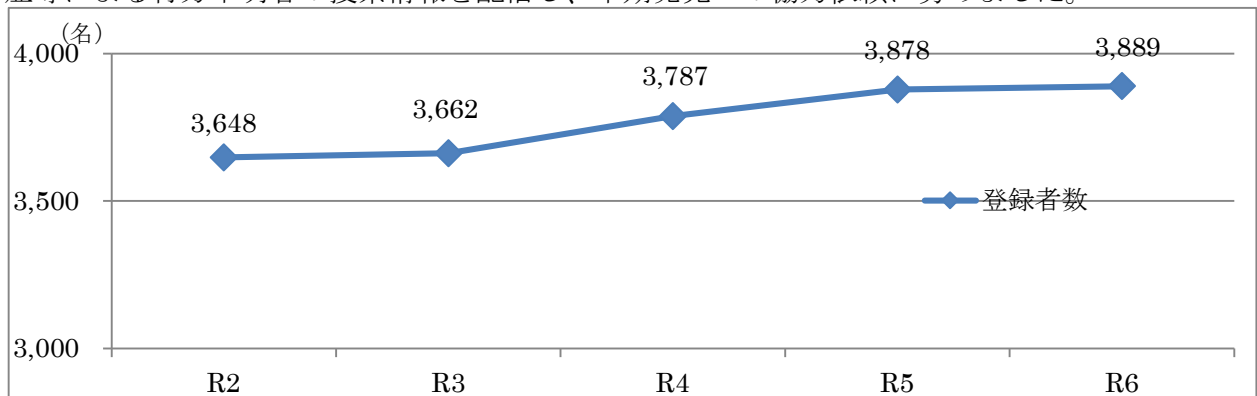
地 区	高齢者	障がい者	子育て	地 区	高齢者	障がい者	地 区	高齢者	障がい者	子育て
城 北	10		1	飯 野	6	1	栗 熊	7	1	
城 西	2		1	川 西	5		富 熊	6		
城 乾	8			郡 家	4		岡 田	9		
城 坤	6	1		垂 水	5		飯山南	16		
城 南	10			本 島	4		飯山北	14		
土 器	9			広 島	4		合 計	125	3	2



⑧見守りネット事業

(ア) 福祉情報メール配信 (情報♡ほっとメール) (登録者数 3,889名)

携帯電話等のメール機能を活用し、丸亀市地域包括支援センターからの情報提供を元に認知症等による行方不明者の検索情報を配信し、早期発見への協力依頼に努めました。



メール配信件数

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
行方不明者情報			1										1

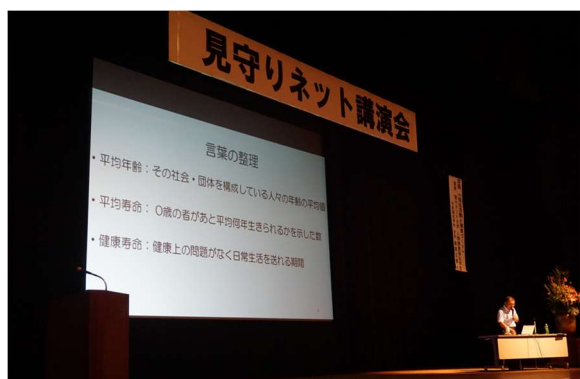
(イ) 見守りネット講演会の開催（福祉協力員研修会）

住民同士の見守り支え合いの仕組みとして小地域ネットワーク活動を進めており、福祉協力員を対象に、全ての住民が安心して暮らせる「地域づくり」を目的に講演会を開催しました。

「福祉活動と健康づくり」と題して、聖カタリナ大学助教 雑賀氏より講演をいただきました。社会参加こそが健康寿命を延ばし、共に支える関係(共支)の重要性や、またいろいろな支え合い活動の具体例や地域貢献活動の方法などをご教示いただき、これからの見守り活動やサロン活動を行っていく上での手がかりとなりました。

(単位：名)

日 付	内 容	参加人数	場 所
R6. 7. 29	演題 「福祉活動と健康づくり」 講師 聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 社会福祉学科 助教 雑賀 正彦 氏	205	綾歌総合文化会館 アイレックス



雑賀氏による講演



見守りネット講演会

(4) こども食堂等居場所づくり事業

①こども食堂・居場所ネットワーク事業

経済的な事情により子どもが社会的孤立に陥らないよう、安心して過ごすことのできるこども食堂や居場所づくりを実施している 15 団体等を対象に、事業の啓発やネットワーク会議の開催や情報提供に取り組んでいます。また資金助成やフードバンク活動、応援企業や団体の獲得など、こども食堂や子どもの居場所づくり活動の支援を進め、必要に応じて行政機関等と連携が図れる体制の構築に努めています。

【実施状況】

実施項目	実 施 概 要
ネットワーク会議	<p>日 時：令和6年7月11日(木)</p> <p>場 所：ひまわりセンター</p> <p>内 容：実践報告「NP0法人あおぞら ひみつきち てつや」(多度津町) 「一般社団法人SKYあーと b&gまるがめ・もぐもぐcafe」 連絡事項「2市3町社協の連携(こども食堂等の食支援)について」 「こども食堂における衛生管理のポイント」</p>
	<p>日 時：令和7年2月3日(月)</p> <p>場 所：ひまわりセンター</p> <p>内 容：情報共有「子どもの虐待防止について」 香川県西部子ども相談センター 飛田 英士 氏 講義「誰もが輝く 笑顔があふれるキッズ・ピカソクラブの秘密」 キッズ・ピカソクラブ主宰 平田 真弓 氏</p>
事業の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども食堂・居場所づくり等ネットワーク」ホームページ ・社協だより「かけはし2月号」No.74 「丸亀市こども食堂・居場所づくり等ネットワーク」掲載 ・丸亀市食育ネットワーク会議 「食育啓発パネル展」へ参加 市役所ロビー ～ 中央図書館 ～ 綾歌図書館 ・令和7年9月23日(祝) ふくしフェスティバルinまるがめ こども食堂・居場所パネル啓発・フードドライブ活動
情 報 提 供	<ul style="list-style-type: none"> ・運営支援助成金等の情報提供 ・香川県子どもの未来応援ネットワークとの連携 等

【こども食堂】

(単位：回)

団体名 (開催地区)	通常開催日	開催回数
未来ISSEY 色えんぴつ食堂 (城北)	毎月第1水曜日	12
b&gさぬき (城北)	毎週金曜日	28
みらスタ☆カフェ (城西)	毎月第4土曜日	16
秋寅にじいろ食堂 (城乾)	毎月第2土曜日	12
うみそら食堂【みんなdeわが家】 (城乾)	毎週月・木曜日	101
うみそら食堂【IYASAKA】 (城乾)	毎週水曜日	27
どきどき食堂つ☆な☆ご(土器)	毎月第4土・日曜日	23
ネムの木 こども食堂 (川西)	毎週水曜日	51
もぐもぐcafe (川西)	毎週木曜日	84
まるがめこども食堂Sunny (飯山)	不定期	12

【こども食堂・居場所への食料品・日用品等の支援】

寄付団体	回数	配布品目	配布先 団体数延べ
トリートホールディングス(株)	5	調味料・食品	40
(株)ヒカリホールディングス	2	食品・日用品	16
香川県社会福祉協議会	2	日用品・防災食	5
綾川町社会福祉協議会	1	食品	1
(有)寶月堂	1	菓子	5
丸亀法人会	4	食品・ばら寿司・菓子・防災食・食器	33
ライフデザイン・カバヤ(株)	1	菓子	3
個人支援者	13	調味料・食品・野菜・日用品・菓子・米	49



② 2市3町社会福祉協議会と連携し「相談機能付き食支援体制整備事業」

休眠預金を活用する「休眠預金等活用法」に基いた一般社団法人 全国食支援活動協会」による「相談機能付き食支援体制整備事業」の資金配分団体に香川県内で琴平町社会福祉協議会とオアシス丸亀の2団体が選ばれ、2つの団体が協力・連携することを求められました。

これを受け、令和6年4月より2市3町(丸亀市・善通寺市・琴平町・多度津町・まんのう町)社会福祉協議会職員が集まり、相談機能付き食支援体制整備事業の打合せ等が行われ、それぞれの社会福祉協議会でチラシを配布し、食支援を通じた相談業務が行われました。

本会では7月「こども食堂・居場所等のネットワーク会議」を開催し、2市3町のこども食堂・居場所にも各市町社会福祉協議会を通じて呼びかけをし、お菓子等を配布いたしました。

(5) 生活支援体制整備事業

高齢者が安心して暮らせる地域づくりを目的に、それぞれの地域の特性に応じた課題解決のための仕組みづくりを検討し、住民主体の話し合いの場づくりを進め、生活支援コーディネーターとして地域福祉の推進をすすめています。本年度も地域福祉活動に取り組む活動の実践報告会を開催し、地域住民同士の学びあいの機会として、各地域の活動について情報交換をしました。

①話し合いの場等開催状況

(単位:回)

地 区	名 称	内 容	回数
城 乾	多世代交流の居場所づくり	○みんながオルデ通町連絡協議会 ○多世代交流サロン「ときめき城乾」	14

郡 家	さんぐん未来部話し合い	○郡家ふれあいまつりの準備 ○公園の整備について検討 ○コミュニティに新しい居場所の検討	7
飯 野	飯野地区民生委員児童委員 月例会 等	○一人暮らし高齢者の外出支援・居場所づくり 「ふれあいカフェ」の開催	6
栗 熊	居場所づくり話し合いの場 栗熊校区公園整備検討委員会	○交流室「あつまロン」実行委員会 ・世代間交流事業の定着 ○新規公園整備のためのワークショップ 等	3
岡 田	地域での相談の窓口	○なんでも相談室	4
飯山南	話し合いの場	○「法の郷ささえ愛サービス」 ・高齢者対象の住民互助による生活支援	2
飯山北	桃の里福祉連絡協議会	○「いきいきおでかけ便」 ・高齢者対象の住民互助による送迎支援 ○「たすけあい飯北」 ・高齢者対象の住民互助による生活支援 ・見守り活動仕組みづくり ○「ふれあいいきいきカナマルサロン」 ・古民家を活用した居場所づくり ・コスモスまつり企画運営 ○高校生・専門学校との関わり支援	6

②生活支援活動実践研修会 ～生活支援体制整備事業の取り組み～

日 付	内 容	参加人数	場 所
R7. 1. 15	【実践報告】 ① 飯野地区 「ふれあいカフェ」 （相談機能付きカフェ） 飯野地区民生委員児童委員協議会 副会長 奥澤 日登美 氏 ② 富熊地区 「映画鑑賞とおしゃべり会」 富熊老荘連合会 会長 神野 博之 氏 【コーディネーター・講義】 岡山大学 研究・イノベーション共創機構 産学官連携コーディネーター（特任准教授） 長尾 敦史 氏 「AI時代の地域福祉」	47名	飯山総合保健福祉センター2階 会議研修室1・2

おもいやりネットワーク参画団体の参加呼びかけをしました。



生活支援活動実践研修会

(6) 地区コミュニティとの連携

①地区コミュニティ助成事業

小地域での福祉活動を推進するために必要な運営費を助成し、地区コミュニティと協働した地域福祉活動の充実を図りました。

(単位：円)

内 容	R4	R5	R6
地 域 福 祉 推 進 事 業 助 成 金	1,267,310	1,241,295	1,213,850
共 同 募 金 助 成 金	5,488,000	5,425,000	5,382,000
福祉推進活動費助成金	1,910,000	1,880,000	1,850,000
合 計	8,665,310	8,546,295	8,445,850

②コミュニティ会長・連合自治会長 県外研修会

地域づくりの推進にあたり、日頃から連携させていただいているコミュニティ会長・連合自治会長をはじめ各地区で中心となる方々と県外研修会に参加しました。初日は防府市役所で、防府市自治会連合会の方からは、自治会の概要のほか注目する活動の一つとして「結ネット」を紹介していただきました。ホームページで広報紙やハンドブックの閲覧を可能にするなどペーパーレス化に積極的に取り組み、デジタル化を推進していることを知りました。また令和7年1月から新庁舎となった市役所内を案内していただき有意義な時間を過ごすことができました。2日目には、山口市で開催された「第19回人づくり・地域づくりフォーラムin山口」に参加しました。実践事例発表を聞き、グループワークを通じて情報交換をすることができました。

(単位：名)

日 付	内 容	場 所	参加人数
R7.2.14	防府市自治会連合会視察研修	防府市役所	18
2.15	第19回人づくり・地域づくりフォーラムin山口	山口県 セミナーパーク	



防府市自治会連合会視察研



第19回ひとづくり・地域づくりフォーラムin山口

（７）丸亀市社会福祉大会受託事業

第２０回丸亀市社会福祉大会を、１０月１５日（火）綾歌総合文化会館アイレックスにおいて開催しました。多年にわたり社会福祉の発展に貢献された方々の顕彰を行い、記念講演では、元丸亀市教育委員会教育長の中野レイ子氏から「多様性の時代に ～誰一人取り残さない地域共生社会を目指して～」と題しご講演いただきました。

（単位：名／団体）

表 彰・感 謝	人 数	団体数
丸亀市社会福祉協議会会長 表彰	50	1
丸亀市社会福祉協議会会長 感謝	2	11
丸亀市共同募金委員会会長 表彰	2	－



表彰の贈呈



中野レイ子氏による記念講演

（８）「ファミマフードドライブ」からの支援

㈱ファミリーマートと本会は、「食品の提供に関する合意書」を締結し、丸亀市内の７店舗で実施されている「ファミマフードドライブ」に継続してご協力いただきました。ご家庭にある食べきれない食品を対象店舗にご持参いただくことで、食品の廃棄の削減に貢献し、生活困窮等により援助を必要とする方へ支援しました。

【店舗に寄せられた食品】

店舗名	支援回数（回）	品物	重さ（kg）
土居町店	6	缶詰・調味料・菓子 野菜ジュース・油など	23.8
今津店	3	栄養補助食品・飲料 菓子など	5.0
山北町店	1	飲料・菓子など	19.0
三条店	6	菓子・離乳食・飲料 素麺・缶詰子など	16.7
川西北店	6	飲料・菓子・カレー粉 缶詰・出汁・調味料など	15.2

2. ボランティア活動推進事業

(1) ボランティアセンター事業

①ボランティアマッチング状況

ボランティア活動を希望される個人ボランティアのマッチングを行いました。

区 分	R5	R6
マッチング件数	68回/292名	54回/236名

②広報啓発

ボランティア団体やマルタスと連携し、社協だより「かけはし」やホームページを活用したボランティア情報の提供を行いました。



ボランティア募集チラシの掲載
(ホームページ)



社協だより「かけはし」71号
(令和6年6月)

(2) ボランティア保険の加入促進

本会が窓口となりボランティア保険の加入促進に努めました。

(単位:名/団体)

区 分	人 数		団体数	
	R5	R6	R5	R6
1. 活動保険 (①)	1,177 (3)	1,186 (17)	81	87
団体 (内、災害ボランティア)	1,166 (1)	1,180 (13)	81	82
個人 (内、災害ボランティア)	11 (2)	6 (4)		5
2. 行事保険 (②)	2,899	1,411	58	52
合 計 (①+②)	4,076 (3)	2,597 (17)	139	139

(3) ボランティア活動の推進

重点項目 ①こどもふくしセミナー事業（おやこ防災ワークショップ）

川西地区自主防災会の協力により、小学生の親子を対象とした防災セミナーを開催しました。支援活動を実際に体験することで、災害時においてお互いに助け合うことの大切さを学び、南海トラフ巨大地震や激甚化する豪雨災害に対する意識づけの機会となりました。

日付	内 容	参加人数	場 所
R6. 7. 27	○ケガをしてしまった人を助けよう！ ・心肺蘇生～AEDの正しい使い方～ ○初期消火に挑戦してみよう！ ・消火器の使い方～水消火器で実践～ ○新聞紙でスリッパを作ってみよう！ ・スリッパ作り～緊急時に役立つ～ ○竹切りに挑戦してみよう！ ・ノコギリの使い方～力を合わせてチャレンジ～	14組 42名	フジグラン丸亀 郵便局奥 森林公園



災害に関するクイズ



人形を使っての心肺蘇生訓練



水消火器に挑戦



昼食はお楽しみのカレーライス

②小・中・高校生ボランティア講座

ボランティア団体協力のもと、学生ボランティア体験講座を開催しました。

(単位：名)

日付	内 容	参加人数	場 所
R6. 7. 29	○手話を学ぼう（中・高校生の部） 講師：丸亀手話サークル亀の子会	34	ひまわりセンター
8. 5	○手話を学ぼう（中・高校生の部）	8	ひまわりセンター



手話を学ぼう（丸亀手話サークル亀の子会）



③福祉教育推進事業・輝く☆学生ボランティア活動応援

「福祉教育推進事業」では、市内の小中学校を対象として福祉教育に掛かる費用の一部（上限5万円）を赤い羽根共同募金から助成し、福祉教育の推進を図りました。また「輝く☆学生ボランティア活動応援」として、市内でボランティア活動を実施する高校生や大学生などのグループを対象に同じく赤い羽根共同募金から費用の一部（上限10万円）を助成し、ボランティア活動に役立てていただきました。

福祉教育推進事業

区分	助成先	テーマ	事業概要
1	城北小学校	昔遊びで地域の人とふれあう	世代間交流
2	城西小学校	様々な立場の人と関わり、自分の世界を広げよう。	福祉・人権学習
3	城坤小学校	人にやさしい城坤小	福祉体験
		命を大切にする城坤小	緑化活動
4	城南小学校	親子クリーン活動	親子清掃活動
5	飯野小学校	豊かな心で広げよう友達の輪	丸亀支援学校との交流
		大好き いいの町	長寿クラブとの交流
		みんな なかよし	長寿クラブとの交流
6	郡家小学校	地域活性化を目指した活動	多文化共生、地域ふれあい活動
7	富熊小学校	支え合ってみんな幸せ	地域の清掃活動
		富熊老壮連合会との交流活動	昔遊び交流

8	岡田小学校	地域との協働で創る心豊かな環境づくり	親子清掃活動 緑化活動
9	栗熊小学校	栗熊のお宝探検隊 やさしいまち栗熊をつくろう	地域ふれあい活動 高齢者体験
10	飯山北小学校	清掃活動「愛校日」	地域の清掃活動
11	綾歌中学校	やさしさ配慮講座 地域清掃ボランティア活動	障がい・高齢者体験 地域の清掃活動

輝く☆学生ボランティア活動応援

区分	助成先	テーマ	事業概要
1	飯山高等学校 ボランティア部	地域の子どもたちとの交流	「法の郷公園」での イベント開催
2	丸亀城西高校 team S J	塩飽諸島魅力発見プロジェクト	島しょ部地域の魅 力の発信
3	大手前丸亀高校 TSUNAGU	地域活性化	丸亀に関する未知 の魅力発見
4	松陰高等学校丸亀校 ボランティア部	地域の方とのコミュニケーション をして地元を見つめ直すきっかけ 作り	地域の清掃活動 讃岐広島でのふれ あい交流
5	四国医療専門学校 459 ボランティア クラブ	看護の視野を広げるボランティア	多様なボランティ ア活動に参加



④まるがめ高校生ボランティア部

令和5年6月にまるがめ高校生ボランティア部を発足し、「できる人が、できることを、できるだけ」と合言葉に部員を募集しました。近隣の高等学校8校81名が、学校の垣根を越えて、様々なボランティア活動に参加しました。毎月第3金曜日には、定例会を開催し、ボランティア活動の情報提供や学生同士の交流・意見交換会を行いました。

(ア) 部員数

(単位：名)

学校名	人数	学校名	人数
大手前丸亀高等学校	58	村上学園高等学校	2
香川県藤井高等学校	1	香川県立丸亀城西高等学校	3
香川県立丸亀高等学校	13	香川県立飯山高等学校	2
香川県立善通寺第一高等学校	1	英明高等学校	1
		8校 合計	81



チラシ（表）

高校生ボランティア部 in まるがめ

まるボラ入部届

私は「高校生ボランティア部 in まるがめ」への入部を希望します。
入部後はルールを守り、日々精進します。

入部3か条
 まるがめが好き
 楽しめる人
 喜ぶ協力できる人

令和 年 月 日

ふりがな
学生氏名 _____

連絡先(携帯電話番号) _____

学校名 _____ 学年 _____

保護者 氏名 _____

住所 _____

緊急連絡先 _____
※個人情報はつきまちは、目的の範囲内で取り扱います。

【入部手帳】
※受付時間：月～金 8:00～17:00（土日祝除く）
 ①「入部届」に記入し、年費100円（ボランティア活動保険料300円の一部負担金）を添えて、ひまわりセンター（丸亀市社会福祉協議会）までお持ちください。
 ※その都に入部コード（QRコード）を提示しますので、スマートフォンをご持参ください。

丸亀市社会福祉協議会HPはこちら [スマホでも大丈夫！（QRコード）](#)

申し込み費用 100円 領収いたしました。
（お持ち帰りください）
 丸亀市社会福祉協議会 公益 税務関係 控帳（印）

入部届（裏）

（イ）ボランティア活動実績

丸亀市内の福祉・NPO 団体、市役所などから寄せられたボランティアニーズをもとに、高校生ボランティア部員へ情報を共有し、参加希望者を募集しました。その結果、延べ 30 件（112 名）の活動参加がありました。

参加した学生からは、「ボランティア活動を通じて人とのつながりの大切さを感じた」「地域課題を知ることができ、今後も地域貢献活動に取り組みたい」といった前向きな声が寄せられました。

（ウ）定例会

毎月第 3 金曜日の 16:30～18:00 に、丸亀市市民交流活動センター「マルタス」にて定例会を開催しています。定例会には、学生をはじめ、マルタス（高校生ボランティア部協力団体）、および丸亀市社会福祉協議会の職員が参加しています。

6 月の発足式では、「ボランティア部の目標」をテーマにグループワークを行い、活発な意見交換を経て、今年度の目標を「香川県のヒーローに！」と決定しました。

また、ボランティア活動に関わるゲストをお招きし、地域のニーズについて直接お話を伺いました。今後の活動の方向性や展望について、参加者同士で積極的な意見交換を行い、活動への意識を高めました。



6/21 ボランティア部発足式

（エ）学生ボランティア・アワード（ボランティア・アワード実行委員会）

まるがめ高校生ボランティア部より、ボランティア・アワード実行委員を募集しました。計 19 名の有志の学生（大手前高校 18 名、丸亀高校 1 名）により、8 月の中間報告会および翌年 3 月のボランティア・アワード本番に向けて、意見を出し合いながら準備を進めました。高校生

らしい視点と創意工夫を活かし、手作りで温かみのあるボランティア・アワードを開催することができました。

(オ) 8/16 まるがめ学生ボランティア・アワード中間報告会

発表団体 (2 団体)

グループ名	学 校 名	テーマ
大手前丸亀高校 TSUNAGU	大手前丸亀高等学校	地域活性化
459ボランティアクラブ	四国医療専門学校	看護の視野を広げるボランティア
大手前丸亀高校 TSUNAGU	大手前丸亀高等学校	全国高校生ボランティア・アワード出場報告



ポスター
※実行委員作成



報告様子 (大手前高校)



報告様子 (四国医療専門学校)

(カ) 11/24 岡山高校生ボランティア・アワード視察

「まるがめ学生ボランティア・アワード」の運営に向けたヒントを得ることを目的に、岡山県内でボランティア活動に取り組む高校生による発表を視聴し、情報交換および交流を行いました。実際のアワードを視察することで、開催の具体的なイメージや運営のアイデアが得られ、今後の企画に向けた参考となりました。また、参加した学生にとっても他校の活動を知る貴重な機会となり、モチベーションの向上につながりました。

参加者：ボランティア実行委員会 12 名、マルタス 2 名、丸亀市社会福祉協議会 2 名



岡山高校生との交流 (意見交換会)



集合写真

(キ) 3/20 まるがめ学生ボランティア・アワード 2025

参加団体（6 団体）

グループ名	高校名	テーマ
飯山中学校 ボランティアリーダー	飯山中学校	地域の清掃活動、地域行事への参加
JoseiZ	大手前丸亀中学校 西中学校	海を綺麗にしよう、廃材を有効活用しよう
飯山高校ボランティア部	飯山高等学校	地域の子どもたちとの交流・地域貢献
大手前丸亀高校 TSUNAGU	大手前丸亀高等学校	地域活性化
松陰高校丸亀校 ボランティア部	松陰高等学校丸亀校	地域の方とのコミュニケーションを取り活動することで地元を見つめ直すきっかけを作る
459ボランティアクラブ	四国医療専門学校	看護の視野を広げるボランティア



チラシ



集合写真（発表者・実行委員・審査委員）

(4) 「第12回ふくしフェスティバルまるがめ」の開催

丸亀市を拠点に活動する参加協力団体36団体によって、「第12回ふくしフェスティバルまるがめ」を盛大に開催することができました。丸亀市における地域福祉活動は、福祉施設やボランティア、NPOなどの福祉団体を中心としたさまざまな担い手により、幅広い分野で活動が広がっています。各団体が気軽に集い、交流できる場や福祉活動を啓発する機会が増えている中で、地域住民の誰もが福祉について学びやすい機会をつくることを目的とし、各団体が工夫を凝らしたブースを設けました。屋外では飲食や物品の販売、屋内では、手話コーラスやマジックショーのほか、車いすなど様々な体験コーナーで笑顔が見られました。

「みんながつながり、みんなで支え合い、誰もが安全に安心して暮らせるまち丸亀」の実現を目指し、参加団体が一丸となって取り組むことができました。



丸亀手話サークル 亀の子会



フードドライブ活動

(5) 珠洲市災害ボランティアセンターへの職員派遣

令和6年1月の能登半島地震では、家屋倒壊や津波等による被害が広範囲にわたり、北陸地方を中心に多くの被害が発生しました。令和6年3月には被災地の市町社会福祉協議会で災害ボランティアセンターが設置され、全国の社会福祉協議会から職員が派遣されました。本会でも、令和6年3月の石川県志賀町に続き、石川県珠洲市の災害ボランティアセンターへ職員派遣要請があり、令和6年6月から8月までの間で職員3名の派遣をいたしました。

珠洲市災害ボランティアセンターでは、ボランティアを必要とする地域の現地調査や、ボランティアニーズ受付、ボランティアに参加・協力したい方々をつなぐマッチングなどの業務を行いました。また、復旧に向けた支援活動が続けられるとともに、被災地での社会福祉協議会の役割は、生活再建に向けて地域住民に寄り添った支援が必要であり、被災地での災害ボランティアセンター活動は、今後、想定のない災害への備えにもつながる経験の場になり、多くの学びがありました。



オリエンテーション

(6) 令和6年度災害時の協働・連携体制強化研修

大規模災害時の被災者支援を円滑に行うために、行政、社協等連携強化及び関係機関それぞれの役割等について意識共有を図ることを目的に本研修を開催しました。丸亀市をはじめ中讃ブロック圏域の市町・社会福祉協議会、総勢60名を超える職員が参加し、第一部では、さんすい防災研究所の山崎氏から「災害ボランティアセンターと行政との協働」、またJV OADの鈴木氏からは「被災者支援コーディネーション」と題してご講演をいただきました。第二部では、南海トラフ地震による被害を想定し、災害ボランティアセンター設置後における各班の具体的な動きの確認や連携体制の実地訓練を行いました。その後、グループに分かれて活動内容、活発に意見交換がされ、講師の方からは、オリエンテーションの際、webを活用する機会があることなど最近の動向についても助言をいただき、今後の改善につなげる良い機会となりました。災害ボランティアセンター運営については、本会が担っていくことになっています。円滑に災害ボランティア活動を展開し、迅速に復旧支援ができるよう継続して取り組んでまいります。



研修の様子



実地訓練（オリエンテーション班）

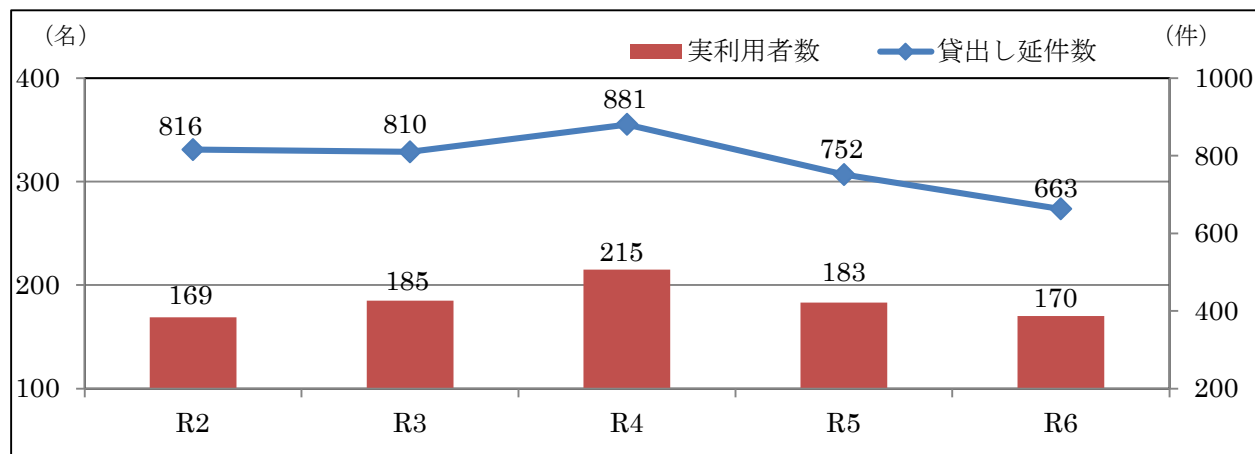
3. 地域サポート事業

(1) 車いす貸出事業

要介護1以下の方や病気・ケガなどで一時的に介助が必要となる方に車いすを貸し出し、通院・外出時の移動や在宅での生活における介助負担を軽減しました。

(単位：名／件)

区 分	実利用者	貸出延べ件数
本 所	134	525
綾 歌 分 室	3	21
飯 山 分 室	33	117
合 計	170	663



(2) 体験グッズ・イベント機材貸出事業

高齢者疑似体験セットや障がい者疑似体験セットを小学校等に貸し出したほか、ふくし出前講座のやさしさ配慮講座で使用し、児童等が実際に体験することで高齢者等への配慮を理解する福祉教育を推進しました。

(単位：件)

機材名	件数	機材名	件数
高齢者疑似体験セット	14	高齢者疑似体験セット (片マヒ)	0
聴覚障がい者体験セット	4	視覚障がい者体験セット	2
白 杖	1	車椅子	11
		(令和5年度42件)	合計 32

機 材	件数	機 材	件数	機 材	件数	機 材	件数
ビ ン ゴ	6	カラオケマイク	2	輪 投 げ	6	ターゲットバットゴルフ	2
新十扇	2	思い出カルタ	5	日本トランプ	1	紅白返し	3
ジャンボサイコロ	3	ダーツ	1	たしざん・九九計算はさみゲーム	2	漢字博士	4
オ セ ロ	4	凡リング	4	どうぶつえあわせ	3	ジェンガ	2
D V D	9	ホームプロジェクター&スクリーンセット	5	フリースタイル輪投げ	1	射 的	2
低床玉入れ	2	C D	1	(令和5年度71件)		合 計	70

(3) 育児用品貸出事業

平成28年4月より、子育て世帯にかかる経済的な負担軽減を目的に丸亀市より委託を受け、乳幼児の保護者等にベビーカー、チャイルドシート等の貸出事業を行いました。家庭で不要となった育児用品のリユースを積極的に行い、持続可能な仕組みづくりに取り組みました。

貸出件数

(単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
本 所	39	30	23	21	26	26	22	26	20	29	18	22	302
綾歌分室	29	35	14	29	21	21	27	29	25	26	23	23	302
合 計	68	65	37	50	47	47	49	55	45	55	41	45	604

(令和5年度562件)

貸出状況(令和7年3月末現在)

(単位：台)

	全体の状況			うち寄付物品		
	貸出中	在庫	総数	貸出中	在庫	総数
ベ ビ ー カ ー	218	75	293	175	74	249
チャイルドシート	405	62	467	310	50	360
ジュニアシート	212	66	278	143	50	193
ベ ビ ー ベ ッ ド	117	22	139	99	20	119
ゲートサークル	—	—	—	120	34	154
ベ ビ ー バ ス	—	—	—	35	66	101
ベ ビ ー チ ェ ア	—	—	—	143	48	191
合 計	952	225	1,177	1,025	342	1,367

4. 丸亀市ファミリー・サポート・センター事業

子育て中の保護者が地域で孤立することなく、安心して子育てができる地域づくりを目指して会員同士の相互援助活動の支援を行いました。

本年度は地域の子育て支援施設でファミサポの啓発及び相談・登録会を行い、3名が会員登録につながりました。また新規登録者59名のうち、WEB登録で25名の会員が増えました。

(1) 年度別会員登録者数

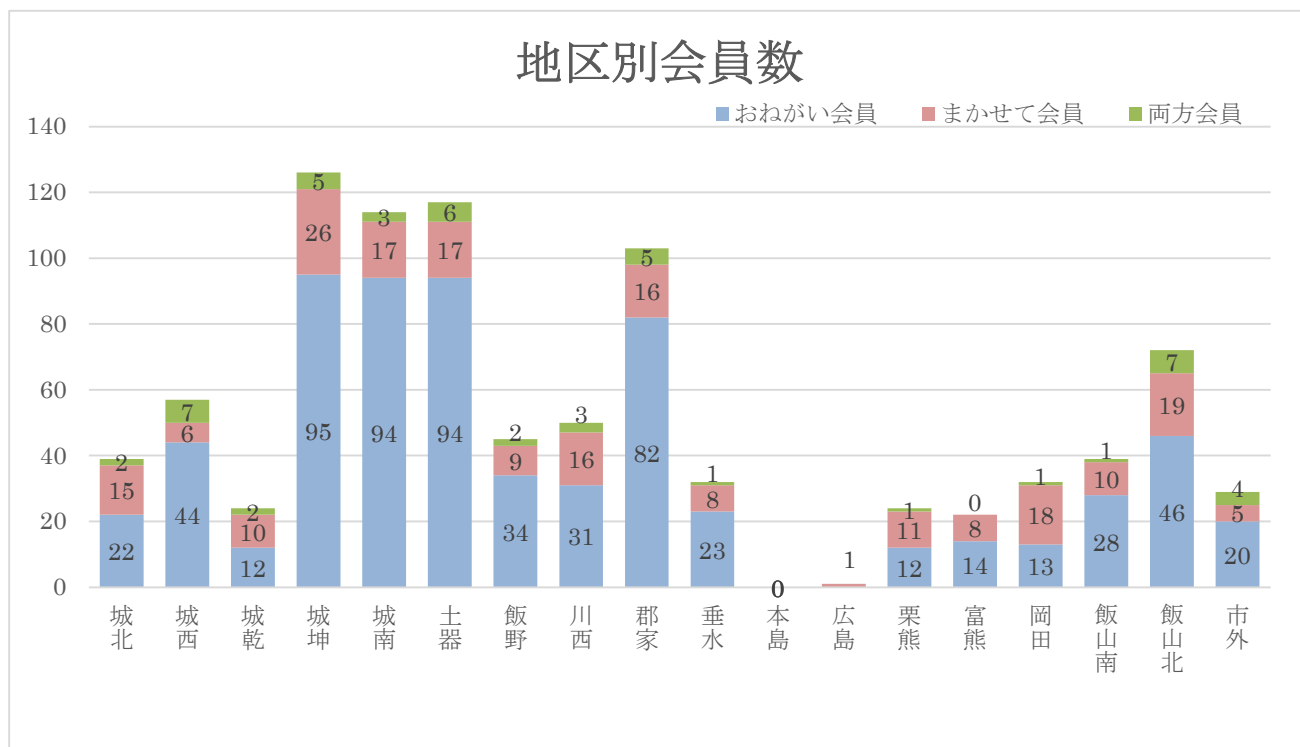
(単位：名)

項 目	R4	R5	R6
まかせて会員	199	209	212
おねがい会員	827	718	664
両 方 会 員	46	49	50
合 計	1,072	976	926

(2) 活動実績

(単位：件)

項 目	R4	R5	R6
保育所・幼稚園の登園前の預かり	39	32	4
保育所・幼稚園の送迎	607	744	692
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	99	187	102
放課後留守家庭児童会（青い鳥教室）の送迎	77	43	16
放課後留守家庭児童会（青い鳥教室）前の預かり			
放課後留守家庭児童会（青い鳥教室）後の預かり	12	11	9
小学校の送迎	29	6	1
デイサービスの送迎			4
学校の放課後の預かり	5	2	1
子どもの習い事等の場合の送迎	202	189	69
保育所・学校等休み時の預かり	2	17	12
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり	181	125	214
保護者等の求職活動中の預かり	1		
保護者等の冠婚葬祭、他の子どもの学校行事の場合の預かり		1	
保護者等の外出の場合の預かり	47	57	32
保護者等の病気、その他急用の場合の預かり		20	18
その他	15	56	11
自宅・親類宅等への送迎	110	51	42
合 計	1,426	1,541	1,227



(3) 講習会の開催

支援の活動内容で最も多いのが「送迎」です。安全に送迎の支援ができるように今年度も「スキルアップ研修」の一環として、丸亀自動車学校で安全運転講習会を2回開催しました。

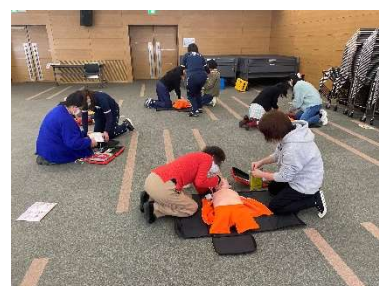
また、2回の養成講座において新たに11名の提供会員の登録を行いました。



6/5 まかせて会員養成講座



7/8 スキルアップ研修会
「安全運転講習会」



11/28 スキルアップ研修会
「こどもを事故から守る」
(単位：名)

年 月 日	内 容	参加人数	場 所
R6. 4. 15	スキルアップ研修会 「安全運転講習会」 講師 丸亀自動車学校指導員	3	丸亀自動車学校
R6. 6. 5・7・12	まかせて会員養成講座（第一回）	10	ひまわりセンター
R6. 7. 8	スキルアップ研修会 「安全運転講習会」 講師 丸亀自動車学校指導員	5	丸亀自動車学校

R6. 11. 28	スキルアップ研修会 「こどもを事故から守る」 講師 日本赤十字社香川県支部 幼児安全法指導員	7	ひまわりセンター
R7. 2. 3・4・5	まかせて会員養成講座（第二回）	4	ひまわりセンター

まかせて会員養成講座 内容

内 容	講 師
子育てをめぐる状況とファミサポ事業について	NPO法人わははネット 理事長 中橋 恵美子 氏
発達に障がいのある子の支援 ～応用行動分析(ABA)のアプローチを取り入れる～	ひもりの里診療所 事務局長 社会福祉士 大山 茂之 氏
こどもの症状と看護	ながいこどもクリニック 院長 永井 盛博 氏
こどもとのコミュニケーション ～乳幼児との遊び方～	坂出子育てボランティア 夢*ゆめクラブ 代表 中西 可須枝 氏
保護者とのコミュニケーション	香川県臨床心理士会 臨床心理士 川田 行雄 氏
こどもの世話	四国学院大学非常勤講師 保育士 苧坂 美子 氏
手引きの説明	丸亀市ファミリー・サポート・センター アドバイザー
こどもの栄養と食生活	丸亀市教育部幼保運営課 主査 栄養士 矢野 陽子 氏
心の発達とその支援	丸亀市教育部幼保運営課 指導主事 保育士 常包 雅子 氏
こどもを事故から守る	日本赤十字社 香川県支部 事業推進課 赤十字幼児安全法指導員
こども虐待防止	香川県西部子ども相談センター 児童虐待対策課長 飛田 英士 氏

（４）会員交流事業

今年度は、2回の会員交流会を実施することができました。
親子や会員間の交流を目的とした「親子で体操」や「丸亀こどもデー」では多くの親子が参加し、盛会のうちに終えることができました。

（単位：名）

年 月 日	内 容	参加人数	場 所
R6. 8. 24	交流会（親子で体操）	39	ひまわりセンター

9. 11	サポートミーティング (ヒヤリハット収集・フラワーアレンジメント)	10	ひまわりセンター
10. 21	丸亀こどもデー (布遊具で遊ぼう・ビーズのプレスレット作り)	22	ひまわりセンター



8/24 交流会



9/11 サポートミーティング



10/21 丸亀こどもデー



(5) イベント等への参加（相談・登録）

9月にふくしフェスティバルに参加し、啓発活動及び相談・登録会を実施しました。

また、12月には子育てフェスタに参加し、相談・登録会を行い、飯山中学校のボランティア部の学生が参加し、こどもたちと一緒にワークショップを行いました。



年 月 日	内 容	場 所
R6. 9. 23	ふくしフェスティバル	綾歌総合文化会館アイレックス
12. 21	丸亀子育てフェスタ	綾歌総合文化会館アイレックス

(6) 出前講座の実施

市内の子育て支援施設を使用している保護者からファミサポの事業内容の関心があるとのことで、2カ所で講座を実施し、数名の保護者が会員登録をされました。

5. 共同募金助成事業

(1) 買物支援事業（移動販売支援事業）

これまで長年にわたり、「(有)西内花月堂」に広島・本島地区への買物支援事業をご協力いただいていたが、諸事情により令和6年10月末日をもってその支援が中止となりました。県内では移動販売を実施している事業所が少なく、その選定にとっても難航したのですが、コンビニ大手の「セブン-イレブン・ジャパン善通寺大麻町店」とスーパー大手の「株式会社フジ」に、島しょ部での買物支援事業の必要性についてご理解とご賛同をいただくことができました。移動販売の中止が余儀なくされていた間、島民の皆さまからは一刻も早い再開を望む声が多く寄せられましたが、令和7年1月30日に無事出走式を開催することができ、島民の皆さまの笑顔を取り戻すことができました。買物支援事業は、食料品や日用品等を販売するだけでなく、その販売場所で地域住民がお互いに顔を合わせて会話を楽しむことのできるコミュニティにもなっています。今後も継続して、高齢者の孤立や閉じこもりの防止また地域での見守り活動として展開していくことができるよう努めてまいります。

地区	事業所	開催場所	開催日時
広島	セブン-イレブン・ジャパン善通寺大麻町店	広島内自治会指定場所 7カ所	毎週木曜日 7:30～
本島	株式会社フジ	本島内自治会指定場所 5カ所	毎週水曜日 11:30～



買物支援事業 出走式



広島茂浦地区での取材

(2) 世代間交流支援事業

多世代交流地域の居場所「みんながオルデ通町」の利用にあたっては、引き続き利用者名簿の作成、日誌を記入し、みんなが集える居場所として活動を継続しました。利用者も昨年より549名増加し、例年以上の利用者数となりました。

各団体がオルデ通町を活用し、自由に活動を実施しました。また、みんながオルデ通町の5周年記念イベントを行い近くのデイサービス事業所を招待する等地域のました。

みんながオルデ通町連絡協議会

開催日	回数	内容	参加団体
毎月 第4木曜 ↓ 毎月 第4水曜	12回	運営・使用等について利用団体より活動報告 通町商店街等のイベント開催時の利用 今後の活動内容について 毎月の利用状況報告 など	通町商店街振興組合、通町自治会 丸亀まちづくりと一くの会 気ままにおしゃべりと編みもの 丸亀フォーク村 ウクレレサロン サウンド♪オルデ丸亀♫ NPO 法人つながるつむぐ海と空

利用状況

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	208	218	236	215	259	172	243	213	226	207	223	179

(年間利用者数 2,599)



オルデ通町 5 周年記念イベント

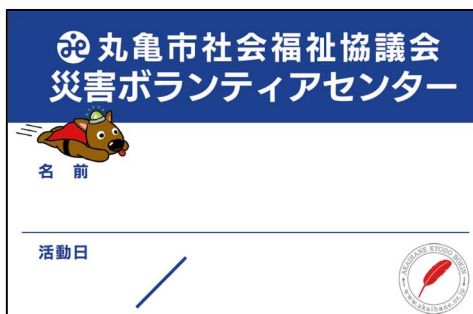


オルデ通町連絡協議会

(3) 災害備蓄資材整備事業

近年全国で発生している大雨・地震等の大規模災害、また南海トラフ巨大地震に備えて、備品整備を行いました。

本年度は災害ボランティアセンターが開設された場合を想定して、災害ボランティアセンターワッペン (3,000枚)、非常用トイレセット (200回分)、ポータブル発電機 1 台を整備しました。



災害ボランティアセンターワッペン



ポータブル発電機

(4) 災害用バンダナ配布事業

災害時用バンダナとは、災害時など支援が必要なときに身につけることで、障害があることや手話・筆談でのコミュニケーションなどの支援が必要であることを周囲に知らせたり、支援を必要とする人に手話などができることを知らせたりすることができるものです。11月16日にマルタスで開催した「愛の広場」で、必要な方へ無料で配布しました。





(5) 「愛の広場」の開催

障がいをもつ人たちの就労と自立についての理解と認識を深め、地域共生社会と自立を目指すことを目的とした「第43回 愛の広場」が、11月16日（土）マルタスで開催されました。19団体が参加しパンや花鉢などの販売のほか、手話講座やクラフト作りなど様々な体験を通して来場者とのコミュニケーションを図ることができ、障がいに対する理解促進の場となりました。

また今回初の試みとして、オープニングの司会を高校生ボランティアが務めました。フレッシュで爽やかな雰囲気の中セレモニーが進行され、無事その大役を務めた後は、盛大な拍手が送られました。



オープニングセレモニー



手話講座



(6) 自治会活動推進事業

17地区連合自治会を対象とし、1地区あたり年1回100,000円を上限に自治会活動の推進に助成を行いました。

団 体	事業数	事 業 内 容	金 額
17地区コミュニティ	17	自治会活動推進事業	1,700,000



(7) 地域歳末たすけあい配分事業

①地域歳末たすけあい見舞金助成事業

民生委員・児童委員及びコミュニティにご協力をいただき、支援が必要な方87世帯196人への見舞金配布を行いました。

②支援学校等の子どもたちへお年玉祝い助成事業

丸亀支援学校の児童・生徒には、学校で十分に活用してもらえよう文具セットを届けました。またその他の施設へは、これまで同様にお年玉を送りました。丸亀支援学校をはじめ、総勢292人の子どもたちに笑顔が見られました。

子どもたちへのお祝いの配布にあたっては、主任児童委員同行のもとおひさま荘、児童養護施設 亀山学園へ訪問し、施設環境を視察するとともに、子どもたちの生活状況の聞き取りや激励を行いました。



香川丸亀支援学校

③ふれあい・いきいきサロン助成事業

高齢者や障がい者等の居場所づくりを進めている、市内125サロンの年末行事に対して助成を行いました。このような地域の集いの場は、ご近所とのつながりを持ち、望まない孤独や孤立を防ぐためにも非常に大切な活動です。今後も参加者全員が楽しむことを前提に、無理のない活動が緩やかに継続できるよう働きかけていきます。

④生活困窮者支援事業（緊急支援物資の購入）

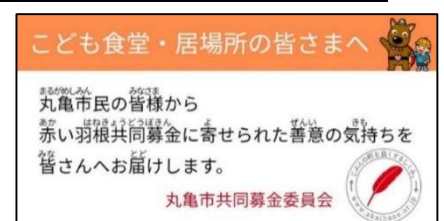
生活困窮者自立支援事業「あすたねっと」における緊急支援物資確保のため、必要な物資の購入を行いました。

⑤子ども食堂応援事業（年末お菓子詰め合せ、マフラー配布）

経済的不安を抱えている子どもたちが年末年始を楽しく過ごせるよう、子ども食堂等を実施する15団体へ、お菓子784セットと寄付でいただいたマフラー508本を配布しました。

（単位：セット）

配布日	団体名	配布数	
		お菓子セット	マフラー
R6. 12. 13 ～20	秋寅にじいろ食堂（通町）	30	35
	みらスタ☆カフェ（七番丁）	30	30
	どきどき食堂つ☆な☆ご（土器町）	30	0
	ネムの木 子ども食堂 まるがめ（川西町）	40	25
	子ども食堂Sunny	0	30
	NPO法人つながる・つむぐ・海と空	50	25
	丸亀ふくしま♡みんなdeわが家（福島町）		
	NPO法人光かがやく絵顔の種	30	30
	NPO法人子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀（通町）	200	80
	認定NPO法人さぬきっずコムシアター（土器町）	180	75
	もぐもぐC a f é（川西町）	50	50
	b&gさぬき（川西町）	25	25
	特定非営利活動法人未来ISSEY（葭町）	50	100
	かめやま食堂（柞原町）	61	0
	おひさま荘・ナチュレ（土器町）	8	3
合計		784	508



6. 社会福祉関係団体との連携・支援

(1) 丸亀市が包括連携協定した笹川スポーツ財団の取組に参加

令和6年12月、丸亀市は笹川スポーツ財団とスポーツを活用したまちづくりの推進に関する包括連携協定を締結しました。「こども」「地域づくり」「スポーツ」の3分野について、議論を深めることとしており、本会は「こども」「スポーツ」のメンバーとして参画しています。

1月に「こども」プロジェクトチームが立ち上がり、「こども」会議に2回参加いたしました。今後は、チームごとに課題解決に向けた具体的な仕組みづくりを検討し、プログラムを策定し、令和7年度にモデル区を選定したうえ、会議で決まったプログラムを実証していく計画になっています。

(2) 丸亀市共同募金委員会事務局の運営

①赤い羽根共同募金運動ならびに地域歳末たすけあい募金運動

オープニングセレモニーでは、藤井中学・高等学校ダンス部によるパフォーマンスが披露され、大盛況の中、10月1日からの「赤い羽根共同募金運動」がスタートされました。70年以上の長きにわたって、住民同士が互いに支え合うための活動を行っている運動は、他に類がなく、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む団体を支援し、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として「赤い羽根共同募金運動」を支援し続けることは、非常に大切なことです。

令和6年度の募金事業では、引き続き県内のプロスポーツチームにご支援・ご協力を賜り、ホームゲーム開催時には、赤い羽根共同募金のブースを設置させていただき、うどんバッジガチャを実施するなど、より一層の募金活動の強化を図りました。

募金実績額

(単位：円)

募金種別	R5			R6		
	目標額①	実績額②	目標達成率 ②÷①(%)	目標額①	実績額②	目標達成率 ②÷①(%)
一般募金	24,000,000	24,285,662	101.2	24,000,000	23,863,076	99.4
地域歳末たすけあい募金	5,352,000	5,136,601	96.0	5,080,000	4,944,628	97.3
合計	29,352,000	29,422,263	100.2	29,080,000	28,807,704	99.0



10/1オープニングセレモニー表彰（川西地区）



10/20カタマーレ讃岐

②赤い羽根共同募金助成事業ならびに地域歳末見舞金給付事業

各団体・施設より申請のあった助成額を審査委員会で厳正に審査し、助成決定された結果を香川県共同募金会へ進達し、助成を行いました。

地域歳末たすけあい運動では、民生委員・児童委員及びコミュニティにご協力いただき、支援が必要な世帯へ見舞金を、そして丸亀支援学校には文具類をお渡ししました。

(ア) 地域福祉推進事業（社会福祉協議会助成）

(単位：円)

事業名	金 額	事業名	金 額
買 物 支 援 事 業	900,000	災 害 備 蓄 資 材 整 備 事 業	300,000
世 代 間 交 流 支 援 事 業	636,000	生 活 困 窮 者 食 糧 等 支 援 事 業	450,000
高 齢 者 友 愛 訪 問 事 業	900,000	愛 の 広 場 開 催 事 業	180,000
たすけあいサービス事業	180,000	自 治 会 活 動 推 進 事 業	1,530,000
福 祉 教 育 推 進 事 業	1,483,414	合 計	6,559,414

(イ) 小地域福祉活動事業（17地区コミュニティ助成）

(単位：円)

分 野	金 額
17地区コミュニティ福祉事業	7,232,000

(ウ) 地域福祉活動支援事業（福祉団体・ボランティア団体等への助成）

(単位：円)

分 野	金 額	分 野	金 額
高 齢 者 福 祉 団 体	618,000	更 生 保 護 団 体	170,000
障害児(者)福祉団体・施設	1,685,000	地 域 支 援	1,561,000
児 童 ・ 青 少 年 福 祉 団 体	1,579,000	合 計	5,613,000

(エ) 広域助成等

(単位：円)

区 分	金 額
県 広 域 助 成	30,950,000
地 域 助 成	139,217,053
県 運 動 経 費	42,343,803
合 計	212,510,856

(オ) 地域歳末たすけあい募金

(単位：円)

事業名		対象世帯・人数	金額
1. 地域歳末たすけあい見舞金助成		87世帯・196人	1,560,000
内訳	① 地区民生委員児童委員が必要と認める世帯	73世帯・164人	1,260,000
	② 地区コミュニティ会長が必要と認める世帯	13世帯・31人	270,000
	③ 児童養護施設亀山学園を退園し就労した者で、 3年以内にある一人暮らし世帯	1世帯・1人	30,000
2. 17地区コミュニティ		—	1,360,000
3. 社会福祉協議会		137団体・292人	2,095,000
内訳	① 支援学校等の子どもたちへお年玉助成 (香川丸亀支援学校237名、児童養護施設亀山学園45名、 若者独立塾 丸亀おひさま荘10名)	292人	974,000
	② いきいきサロン整備事業	123団体	391,000
	③ 子ども食堂応援事業	14団体	430,000
	④ 生活困窮者支援事業(食料品購入)	—	300,000
合 計			5,015,000

(カ) 赤い羽根共同募金活動(第77回香川丸亀国際ハーフマラソン)

令和7年2月1日(土)・2日(日)、第77回香川丸亀国際ハーフマラソンにおいて、亀山学園(園生13名・園長1名、教員1名)と松陰高等学校丸亀校(生徒3名、教員1名)と一緒に、出場選手や来場者へ旧うどん県バッジや、ハーフマラソンのグッズ購入の呼び掛けを行い、赤い羽根共同募金活動を行いました。

後日、募金活動をした高校生ボランティア部が同席し、贈呈式が行われました。

【贈呈式】	内 容	第77回香川丸亀国際ハーフマラソンでランナー、スタッフから集まった寄付金を、丸亀市共同募金委員会の協力で「赤い羽根共同募金」を通じて地域福祉活動や災害被災地等へ大会会長(丸亀市長)から寄贈するもの。
	日 時	令和7年3月26日(水)
	場 所	丸亀市役所4階 市長応接室
	寄付金額	869,032円



（３）丸亀市民生委員児童委員協議会連合会事務局の運営

岡山市で視察研修会を実施しました。上道地区民生委員児童委員協議会の取り組みや活動の様子を聞き、活発な意見交換を行いました。研修会後は民生委員制度の礎を築いた岡山の先人を敬うため、そのゆかりの地を訪問しました。また児童福祉の父と称される石井十次記念館を見学し、その思いに触れ、民生委員児童委員としてのモチベーションをさらに高めるよいきっかけになりました。

また啓発活動として、丸亀お城まつりやふくしフェスティバルまるがめでは、チラシの配布を実施し、丸亀市障がい者スポーツ大会では、サポーターとして運営の手伝いをしたり、障がい者の方々と一緒にスポーツを楽しむなど共に交流を深めました。



お城まつり啓発活動



丸亀市障がい者スポーツ大会参加

（４）丸亀市福祉ママ会議連合会事務局の運営

本年度もチャリティーバザーを開催し、たくさんの方々にご来場いただき、大きな収益を得ることができました。キッズボランティアとして幼児や児童を対象とした体験コーナーを同時開催し、夏は「うちわづくり」、冬はペットボトルのふたをリユースした「だるま」の制作を実施しました。親子で一緒に絵を描くなど、賑わいと笑顔が溢れ、ほっこりした気持ちになりました。また丸亀市障がい者スポーツ大会や第４８回中・四国身体障害者福祉大会では、うどんの接待で福祉ママとして役割を持ち、来場者にアピールすることができました。



キッズボランティア（うちわづくり）



第４８回中・四国身体障害者福祉大会

（５）丸亀市身体障害者福祉連合協会事務局の運営

障がいのある人となない人が共に生きる社会づくりを目指し、丸亀市身体障害者福祉連合協会の事務局の運営を行いました。

本年度は、合併２０周年の節目を迎え、丸亀市長をはじめ多くのご来賓の方々にご参列いただき記念大会を開催しました。多くの皆さまからご祝辞を賜り厳かな雰囲気の中、「白い杖」の紙芝居や女性部による手話コーラスが披露されました。続く記念講演では、一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク代表理事 玉木 幸則氏から「災害時要援護者支援は日常生活の延長線上にあるもの」と題して、阪神淡路大震災の被災経験をもとにご講演いただきました。また各支部及び部会の紹介や２０周年のあゆみが記載された合併２０周年記念誌を作成し、記念に残る仕上がりとなりました。

１１月には第４８回中・四国身体障害者福祉大会（かがわ大会）が、丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスで盛大に開催されました。開催地として香川県身体障害者団体連合会と協働し早くから準備を整え、当日は多くの参加者を出迎え、短い時間ではありましたが交流を図ることができました。



合併２０周年記念大会



記念誌

（６）ねんりんクラブ丸亀（丸亀市老人クラブ連合会）事務局の運営

「大手前高校”TSUNAGU”」（高校生ボランティア）からの、高齢者と交流をしたいという希望と、市役所観光課の「丸亀うちわ」を使った地域貢献活動の企画を受け、高校生との交流会の開催に至りました。当日は高校生から活動発表後、うちわを使った高齢者向けレクリエーションを４案持ち込み、ねんりんクラブ丸亀会員と一時間ほどの交流をしました。ねんりんクラブ丸亀女性会員４名により「丸亀おどり」を高校生に伝承、その後全員で大きな輪になりうちわを片手に「丸亀おどり」を一緒に踊りました。高校生よりレクリエーションを教わり、ねんりんクラブ丸亀会員が、高校生に丸亀おどりを教えるという新たな教え合いの交流会は、地域貢献活動事業への第一歩となりました。



大手前高校”TSUNAGU”との交流会



重点項目 7. 生活困窮者自立支援事業（丸亀市自立相談支援センターあすたねっと）

（１）自立相談支援事業

丸亀市より生活困窮者に対する自立相談支援事業を受託し、事業を実施しました。

様々な生活課題や福祉課題を抱えた方の相談に応じ、複合的かつ困難な課題を抱えた相談者に寄り添い、関係機関と連携を図りながら自立に向けた支援に取り組みました。

○自立相談支援事業相談受付状況（R6新規受付分）

①相談件数

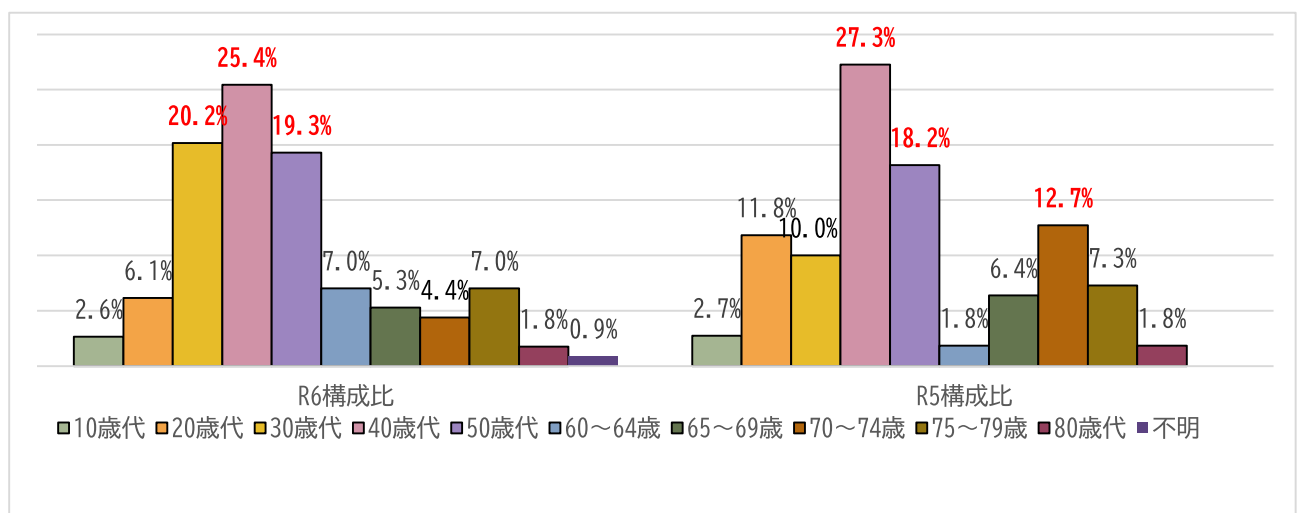
（単位：件）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
相談登録者	15	10	14	6	10	3	11	7	9	9	12	8	114	110

年齢	男	女	計	前年度
10 歳代	1	2	3	3
20 歳代	2	5	7	13
30 歳代	8	15	23	11
40 歳代	17	12	29	30
50 歳代	15	7	22	20
60～64 歳	8	-	8	2

年齢	男	女	計	前年度
65～69歳	4	2	6	7
70～74歳	3	2	5	14
75～79歳	5	3	8	8
80歳代	-	2	2	2
不 明	-	1	1	-
計	63	51	114	110

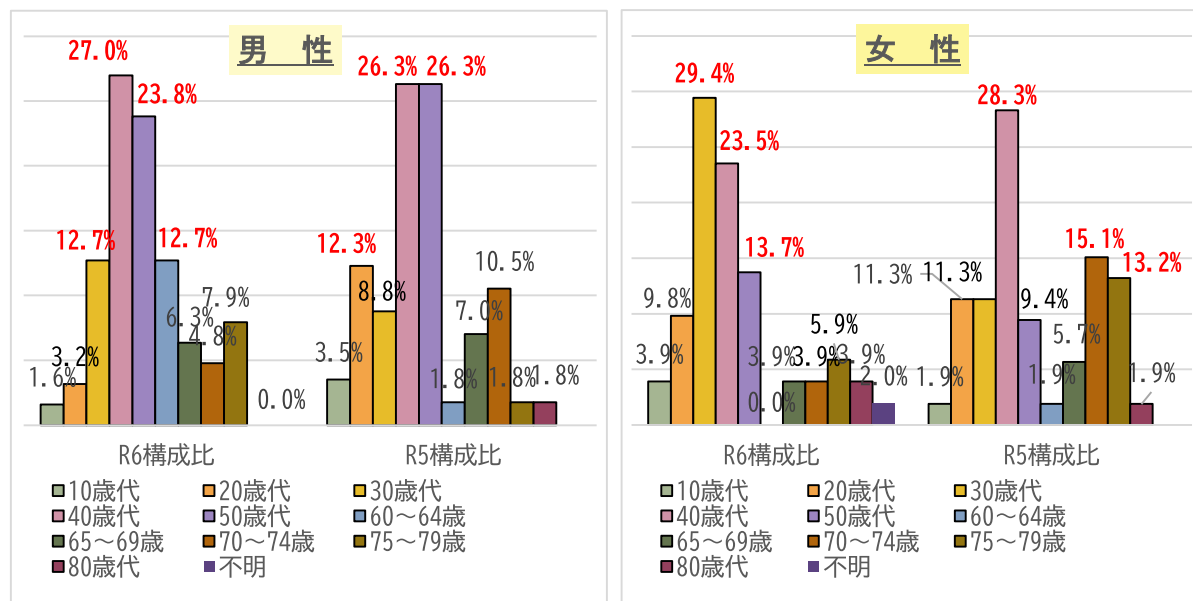
②年齢別相談者割合



《概説》

新規相談者数は増加傾向にあり、30代から50代の相談者が多くみられます。物価高等に耐えうるだけの収入や貯蓄が無く、生活苦を訴える相談者が多くみられました。依然として40代の相談者が多く、前年度は比較的低い割合を示していた30代の相談者が増加しました。

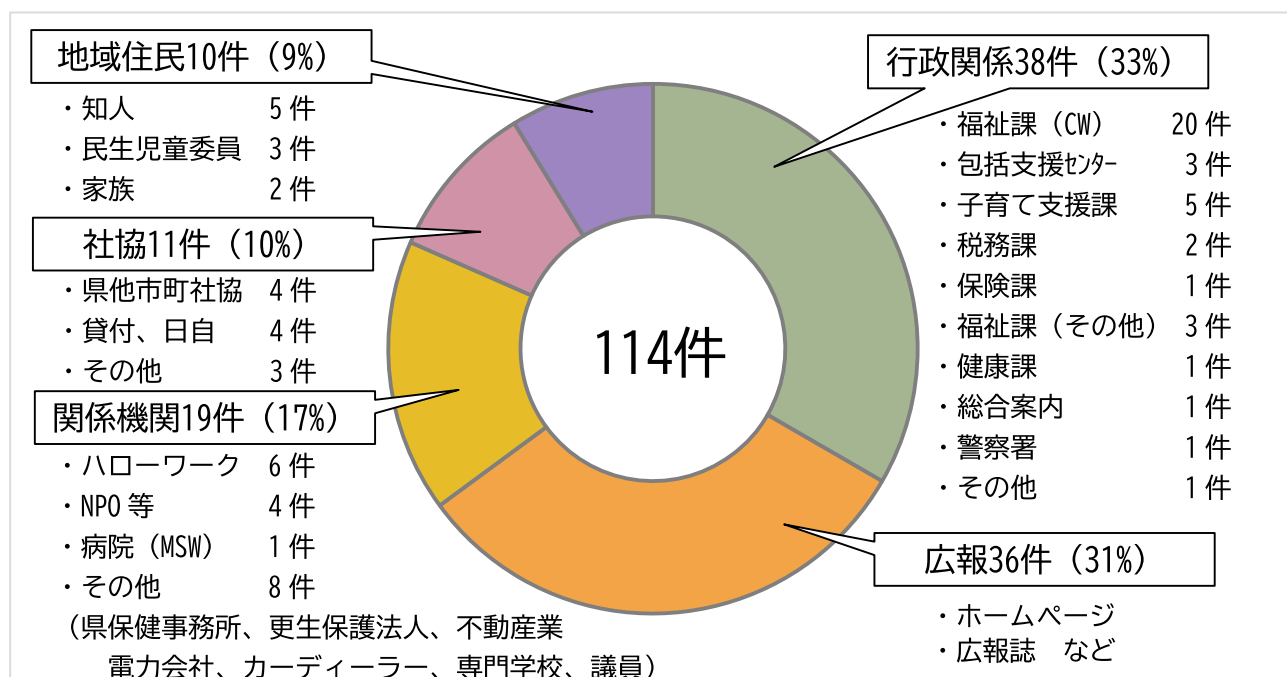
③年齢別相談者割合（男性・女性）



《概説》

年齢別性別割合では、男性は40代、女性は30代が多い結果となりました。40代男性は、17人中11人が就労中でしたが、病気やメンタルヘルス不調、借金や税金滞納などを抱えており、職場環境や収入不足を訴える方が多く、6名は病気やメンタルヘルス不調により就労不可の方でした。30代女性は、15名中就労者は8名でしたが、11名が離婚やひとり親、子育てにかかる課題を抱えており、丸亀市家庭児童相談室等と情報共有しながら対応しました。

④相談経路



《概説》

前年度比較では、広報(+7%)、社協(+4%)からの割合が高くなり、地域住民(△12%)からの割合が低くなりました。試行的に取り組みが進められた重層関係からの相談が3件あり、関係機関では多様な業種からの相談があり、相談窓口としての認知度向上が見られます。

⑤緊急性

(単位：件)

《概説》

内 容	計
食 料	32
住まい	3

前年度
40
13

食料・住まいを合わせた緊急支援件数は、前年度より減少しましたが、食料支援は依然として高止まりの状況です。食料支援では、市民等からの寄附でいただいた食品等を提供し、住まいの支援では、不動産業者やホームレス支援団体の紹介などを行いました。

⑥相談内容

(単位：件)

区分	内 容	計	割合
健康	病気	33	40.2%
	けが	2	2.4%
	障がい（手帳有）	11	13.4%
	障がい（疑い）	7	8.5%
	うつ・自死企図	5	6.1%
	依存症	1	1.3%
	メンタルヘルス	19	23.2%
	ひきこもり	4	4.9%
計		82	100.0%

前年度
36
5
10
6
10
1
17
4
89

区分	内 容	計	割合
住まい	ホームレス	2	5.3%
	家賃未納	13	34.2%
	立退き	2	5.3%
	公共料金滞納	12	31.6%
	住宅ローン支払難	7	18.4%
	居候	1	2.6%
	生活環境	1	2.6%
計		38	100.0%

前年度
4
17
1
9
2
3
1
37

区分	内 容	計	割合
債務	借金	28	57.1%
	税金滞納	15	30.6%
	国民年金滞納	2	4.1%
	電話・携帯電話料金未納	4	8.2%
計		49	100.0%

前年度
48
10
4
11
73

区分	内 容	計	割合
仕事	就労中	44	21.7%
	求職中	45	22.2%
	無職	66	32.5%
	就労意欲なし	10	4.9%
	就職活動難	38	18.7%
計		203	100.0%

前年度
43
40
44
8
21
156

区分	内 容	計	割合	前年度
家族	就労困難	4	4.2%	3
	ひきこもり	2	2.0%	7
	不登校	1	1.0%	2
	D V	4	4.2%	2
	虐待	－	－	1
	ひとり親	19	19.8%	13
	子育て	14	14.6%	10
	介護	13	13.5%	10
	非行	－	－	－
	離婚	16	16.7%	15
	病気	11	11.5%	15
	障がい（疑い）	－	－	2
	障がい	7	7.3%	5
	別居	4	4.2%	2
	依存症	1	1.0%	－
計		96	100.0%	87

区分	内 容	計	割合	前年度
本人能力	言語能力	2	18.2%	1
	コミュニケーション	3	27.3%	1
	理解力	4	36.3%	3
	記憶力	2	18.2%	－
	書く力	－	－	－
計		11	100.0%	5

区分	内 容	計	割合	前年度
学習	学習能力	－	－	－
	発達障害	－	－	2
	発達障害（疑い）	－	－	－
計		－	－	2

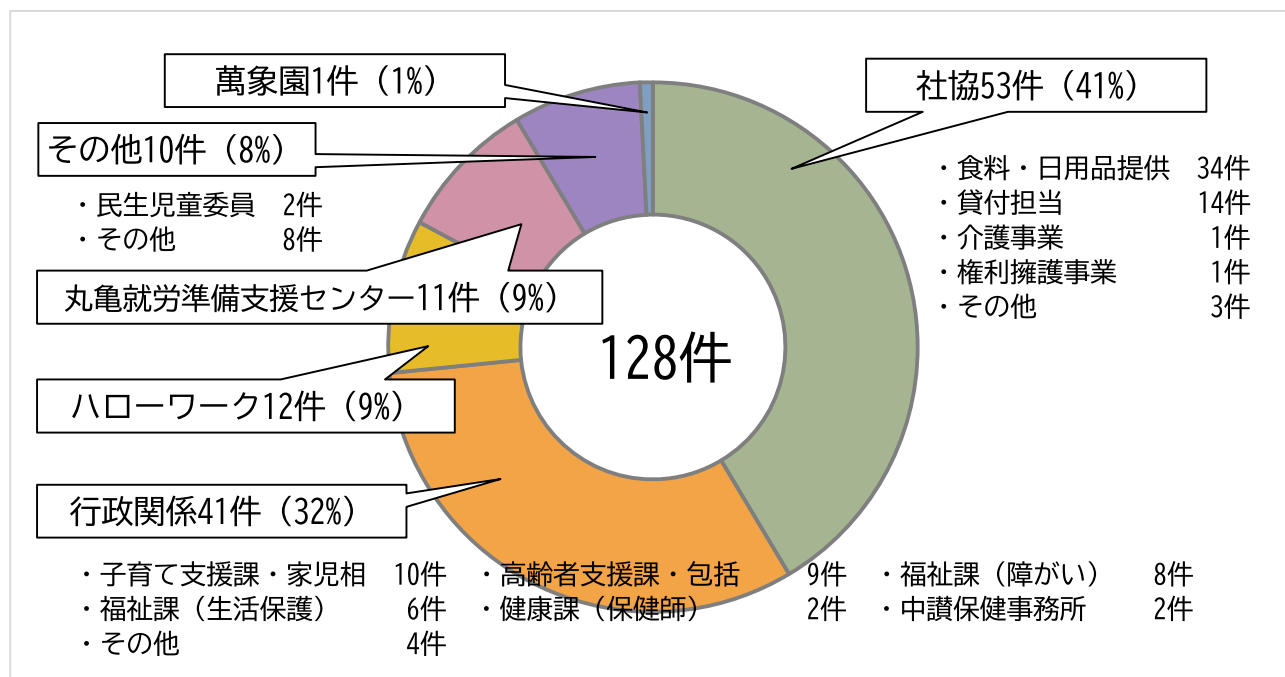
区分	内 容	計	割合	前年度
収入	あり	79	69.3%	79
	なし	33	28.9%	30
計		112	100.0%	109

※区分「収入」は相談内容総数概説からは除外して考察。相談者 114 人中 2 人は収入状況不明。

《概説》

相談内容は、総数 479 件中、①仕事 203 件（42.4%）、②家族の問題 96 件（20.0%）、③健康 82 件（17.1%）、④債務 49 件（10.2%）、⑤住居 38 件（7.9%）となりました。相談時点で本人能力に課題がある方が増加し、就労意欲低下や就職活動難の要因となっているケースが見られました。障がい手帳を持っている方は、就労支援事業者と連携し、障がい者雇用などを進めました。

⑦連携機関（つなぎ先）



《概説》

前年度との比較では、社協（＋7％）、丸亀就労準備支援センター（＋4％）への割合が高くなり、ハローワーク（△4％）への割合が低くなりました。食料・日用品提供は34件と依然として高い数値（近5年間平均28件程度）であり、緊急支援の必要性は高くなっています。

就労支援では、初期から就労準備支援事業実施機関と一緒に初期面談を行うなど、密に連携しながらに相談者の状況に合わせた支援を実施しました。

⑧プラン作成状況（再プラン含む）

（単位：件）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
プラン作成件数		8	10	7	8	4	5	8	5	7	6	3	4	75	66
内容	住居確保給付金（福祉課）	2	1	2	2	－	1	2	－	－	1	－	1	12	7
	就労準備（萬象園）	1	2	1	1	－	－	1	2	1	1	－	－	10	5
	就労準備（丸亀就労準備支援C）	2	4	3	3	3	3	4	2	3	3	1	3	34	33
	就労訓練（萬象園）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	家計支援（あすたねっと）	1	2	1	－	－	1	2	1	2	1	1	1	13	15
	学習支援（福祉事業団）	2	－	－	2	－	－	－	－	1	－	1	－	6	10
	就労自立促進事業（ハローワーク）	2	4	3	3	1	3	5	2	3	4	1	3	34	36
	その他	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1	－

※1つのプランに複数の内容が含まれるため、プラン作成件数と内容の合計は一致しない。

⑨プラン継続状況（各月末日現在の件数）

（単位：件）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	前年度
プラン継続件数		29	32	38	40	45	43	41	44	44	43	46	43	37
内容	住居確保給付金 （福祉課）	3	5	5	6	9	9	8	9	8	4	5	4	3
	就労準備 （萬象園）	3	3	4	4	5	5	4	3	4	4	5	5	4
	就労準備（丸亀就 労準備支援C）	15	15	18	19	19	17	18	21	22	22	24	21	18
	就労訓練 （萬象園）	－	－	－	－	1	1	1	1	1	1	1	1	－
	家計支援 （あすたねっと）	7	6	7	8	7	7	6	7	7	8	8	8	9
	学習支援 （福祉事業団）	2	4	4	2	4	4	4	4	3	4	3	4	6
	就労自立促進事業 （ハローワーク）	16	16	19	20	20	18	18	21	22	22	25	22	18
	その他	－	－	－	1	2	2	2	3	3	3	3	3	－

⑩プラン終結状況

（単位：件）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
プラン終結件数		7	1	－	2	1	3	1	2	3	4	1	3	28	24
内容	就労	5	1	－	1	－	3	1	1	－	1	1	2	16	10
	他サービスつなぎ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
	本人支援辞退	2	－	－	－	－	－	－	－	2	2	－	1	7	5
	市外転出	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	1	4
	生活保護	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	2	2
	中断	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
	行方不明	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	2	－
	本人死亡	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

⑪経過観察相談者状況（各月末日現在の件数）

（単位：件）

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	前年度
プラン終結件数		114	113	127	136	138	129	128	130	128	127	127	127	114

※プラン作成していないが、あすたねっと判断により経過観察を必要とする相談者

⑫丸亀市生活困窮者自立支援運営協議会

日 付	内 容	場 所
R6. 6. 28	令和6年度丸亀市生活困窮者自立支援運営協議会	マルタス

⑬視察受入状況

日 付	内 容	場 所
R6. 5. 10	加西市議員視察	丸亀市役所

⑭研修会参加状況

日 付	内 容	場 所
5. 8/ 7. 24 9. 24/11. 28 R7. 1/30	令和6年度生活福祉資金貸付事業・日常生活自立支援事業・生活困窮者自立支援事業等担当者定例会（5回研修）	県社会福祉総合センター Web研修
5. 26 12. 7	こころの健康セミナー	ひまわりセンター 善通寺五智院
5. 28/ 7. 31 9. 10/11. 29 12. 20	県内社協地域福祉研究会	県社会福祉総合センター
6. 7/11. 14 12. 13 R7. 2. 14	社協職員基礎研修	県社会福祉総合センター
6. 28	第174回市町村職員を対象とするセミナー（ひきこもり）	Web研修
7. 24/11. 25	丸亀市重層的支援体制整備事業研修会	ひまわりセンター
11. 2	ひきこもり×8050問題セミナー	瓦町FLAG
12. 19	令和6年度子ども・若者育成支援者研修会	県社会福祉総合センター
R7. 1. 24	四国弁護士会連合会合同研修	Web研修
1. 27	発達障害支援部会事例検討会	飯山保健福祉センター
1. 28	令和6年度管理職員研修会	県社会福祉総合センター
2. 1	香川コミュニティソーシャルワーク実践研究会勉強会	小豆島農村環境改善センター
2. 12	生活困窮者自立支援制度支援ツール活用セミナー	Web研修
2. 20	令和6年度子ども・若者育成支援事業研修会	香川用水記念会館
3. 4	令和6年度地域福祉フォーラム（高松市）	サンメッセ香川

日 付	内 容	場 所
12. 2 R7. 1. 21	生活困窮者自立支援制度支援員研修（都道府県研修）	県社会福祉総合センター
12/ 4 ～ 5	令和6年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修 （相談支援員初任者研修）	OMM展示ホール
11/ 7 11/14	令和6年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修 （就労支援員・就労準備支援事業支援員初任者研修）	Web研修 全社協灘尾ホール
事前学習 R7. 1. 22	令和6年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修テーマ 別研修（孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援）	Web研修
事前学習 R7. 2. 7	令和6年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修テーマ 別研修（若年層が抱える課題とその支援）	Web研修

⑮関係機関とのネットワーク強化

日 付	内 容	場 所
5. 23 R7. 2. 27	令和6年度マネジメントチーム地域会	飯山総合保健福祉センター
9. 6	生活困窮者自立支援制度支援員研修に係る令和6年度研 修に向けた見直し及び研修企画チーム	香川県庁
9. 30	生活困窮事業委託先ヒアリング	丸亀市役所
10. 28	令和6年度マネジメントチーム地域会全体会	かがわりハ福祉センター
12. 22	ひととこオフ会in丸亀	ヒトトコ丸亀
2. 6	緊急一時支援全国ネットワーク設立シンポジウム	Web会議
2. 26	生活福祉資金市町社協担当者会	県社会福祉総合センター

⑯緊急支援物資の支給

緊急的かつ一時的に生計が困難となり、日々の生活に困っている方々に食糧品や日用品を提供しました。食料支援を通じて相談者との信頼関係を構築しながら、根本的な課題の解決に向けた支援に取り組みました。

（単位：件／セット）

区 分	計	前年度
支援物資支給延べ件数 （食糧品・日用品・家電製品他）	533	655

（２）家計改善支援事業

丸亀市より生活困窮者に対する家計改善支援事業を受託し、事業を実施しました。

生活困窮者の家計再生を図るため、相談者の抱えている課題や今後の希望を相談支援員が丁寧に聞きとりながら、月ごとの家計収支の見直しを行い、暮らしの改善につながるよう支援しました。専門的な知識を要する支援については弁護士（法テラス）と連携し、債務整理などにつなげました。

①相談者状況（各月末日現在の件数）

（単位：人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	前年度
相談者実人員	9	8	8	8	8	8	8	8	10	9	9	9	9

②支援実施回数

（単位：回）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
実施回数	30	41	26	31	41	28	33	18	28	27	27	31	361	326

《概説》

収入があるにもかかわらず、税金滞納や借金返済などで月々の収支が合わない世帯に対し、月一回を目途に来所いただき、レシートや家計簿を本人と一緒に確認することで少しでも家計が改善するよう助言を行いました。借金支払いなどの法的な問題を伴う案件は、本会顧問弁護士のご協力をいただき、債務整理や自己破産などについての助言を受けました。

（３）住居確保給付金相談

離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方に対し、就職に向けた活動をするなどを条件に、一定期間（原則３ヶ月※延長は２回まで最大９か月）、家賃相当額を丸亀市が給付する本制度利用のための相談支援を行いました。

（単位：件／名）

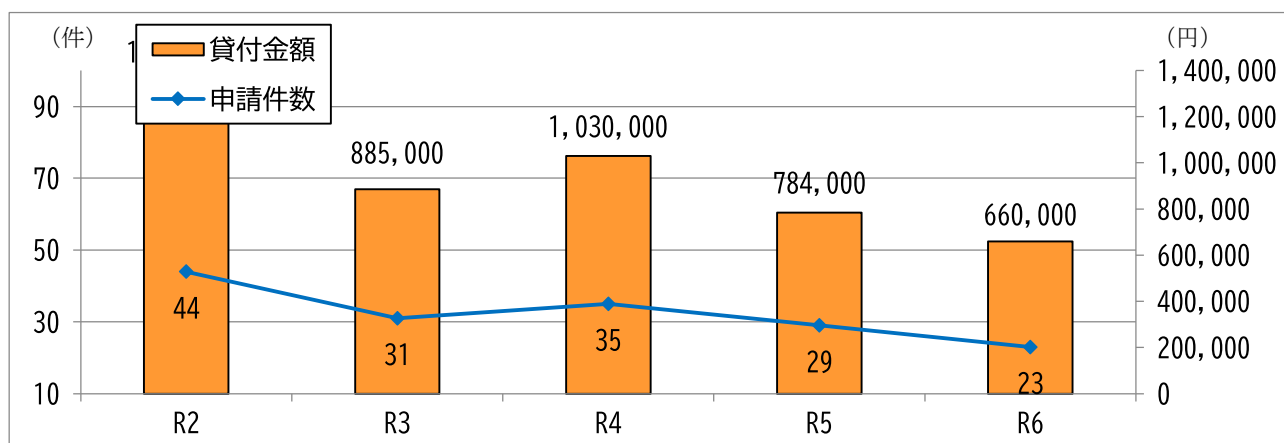
区 分	計	前年度
相談件数	42	60
受給者数	11	8

（４）助け合い金庫貸付事業

本会独自の事業として、公的資金援助制度等の利用対象とならない市内在住の低所得世帯等に対し、生活資金の貸付（上限３０，０００円）を行いました。民生委員・児童委員の協力のもと、世帯が自立更生に向けて安定した生活が営めるよう指導・援助を行いました。

（単位：件／円）

区 分	計	前年度
相談件数	132	113
貸付件数	23	29
貸付金額	660,000円	784,000円



(5) 生活福祉資金貸付事業

香川県社会福祉協議会委託事業として、市内在住の低所得者・高齢者・障がい者世帯および求職・離職者世帯等を対象に資金貸付事業を行いました。世帯が抱える複合的な課題に対し、相談支援と必要な資金の貸付により、世帯の経済的自立と生活意欲の向上に努めました。

(単位：件／円)

	計		
	相談数	貸付数	貸付金額
総合支援資金	30	－	－
教育支援資金	201	8	5,816,000
福祉資金	60	－	－
緊急小口資金 (うち生保つなぎ)	69 (23)	22 (21)	1,309,000 (1,209,000)
不動産担保型生活資金	3	－	－
計	363	30	7,125,000

前年度		
相談数	貸付数	貸付金額
56	－	－
139	4	2,637,000
34	－	－
45 (29)	21 (19)	1,231,000 (1,081,000)
4	－	－
278	25	3,868,000

（６）生活福祉資金特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）

香川県社会福祉協議会委託事業として、新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付事業の債権管理業務を行いました。償還免除返済据置期間が終了し全債権が償還開始となりましたが、

貸付世帯のうち住民税非課税世帯などの償還免除要件にあたる世帯（ア～カ）については、制度に則った償還免除を申請し、依然として生活状況が改善しない世帯については、本会意見書を付し、償還猶予申請を提出しました。

償還対象者については、未手続世帯や償還実績なし世帯を中心に、電話連絡や家庭訪問などを行い、償還（免除）手続きを案内しました。

①債権管理状況（R7. 3/31現在）

（単位：円）

	債権数	貸付金額	償還実績	償還残額
合計（①+②+③+④+⑤+⑥+⑦）	2,807	927,260,000	償還額 102,636,235 免除額 432,670,000	391,953,765
① 繰り上げ償還完了	246	49,270,000	49,270,000	なし
② 償還免除（ア+イ+ウ+エ+オ+カ）	1,241	418,970,000	免除	なし
ア. うち非課税	1,092	371,860,000	免除	なし
イ. うち生活保護	39	13,440,000	免除	なし
ウ. うち障害者	14	4,550,000	免除	なし
エ. うち自己破産	66	21,490,000	免除	なし
オ. うち借受人死亡	27	7,280,000	免除	なし
カ. うち猶予後免除	3	350,000	免除	なし
③ 償還猶予	50	17,500,000	1,495,760	16,004,240
④ 法的手続き中	29	10,430,000	119,350	10,310,650
⑤ 償還対象（キ+ク）	1,157	402,690,000	39,375,845	363,314,155
キ. うち償還中	556	200,870,000	39,375,845	161,494,155
ク. うち償還実績なし	601	201,820,000	－	201,820,000
⑥ 次年度以降非課税適用（残債無）	43	13,700,000	免除	なし
⑦ 次年度以降非課税適用（残債有）	41	14,700,000	12,375,280	2,324,720

《概説》

前年度末比較において、償還実績額は122,268,444円（償還額＋43,588,444円、免除額は＋78,680,000）の増加となり、債権全体に占める免除額割合は46.6％となりました。（令和7年1月末時点での香川県全体の免除額割合44.5％）

償還猶予世帯については、高齢や病気等により就労が安定せず十分な収入が得られない方が多く、1年間の猶予期間を終了しても償還が困難な世帯については少額での返済を案内しました。

家庭訪問については、口座登録ができていない、猶予期間終了後に連絡がない、現住所が丸亀市近郊などの優先基準に基づき95世帯を訪問し、9世帯に接触でき、うち8世帯が手続き完了となりました。アパートなどの共同住宅で世帯状況が分からない世帯が多くみられました。

（７）丸亀市無料法律相談事業

丸亀市委託事業として、市民の日常生活における問題について弁護士に相談できる機会を提供しました。

①相談件数

(単位：件)

開催場所	開催曜日	開催時間	開催数／対応枠
本 所 ①	毎月第1土曜日	9時～12時20分	86 ／ 96
本 所 ②	毎月第3水曜日	13時20分～16時40分	85 ／ 96
綾歌分室	毎月第2木曜日	13時20分～16時40分	79 ／ 96
飯山分室	毎月第4水曜日	13時20分～16時40分	86 ／ 96
※R5 開催数実績合計は、337／384 件		合 計	336 ／ 384

②相談内容

(単位：件)

区分	R5	合計	割合
家事関連	165	182	50.5%
民事関連	139	143	39.7%
刑事関連	4	5	1.4%
行政関連	5	3	0.8%
税務関連	3	1	0.3%
労働関連	4	11	3.1%
その他	17	15	4.2%
計	337	360	100.0%

※相談内容が複数に渡る場合があるため、合計数と開催数は一致しない

（８）香川おもいやりネットワーク事業（おもいやりネット丸亀）

平成２７年４月より、香川県内の社会福祉法人施設や社会福祉協議会、民生委員・児童委員がつながり、地域の課題を解決する仕組みづくりとして、「香川型福祉でまちづくり」を目指した香川おもいやりネットワーク事業を実施しています。

①参加法人・団体名

社会福祉法人名／施設名 ・ 団体名	
鵜足津福祉会	土器川荘
	今津荘
	マイルドハート丸亀
	土器川タウン
宝樹園	青の山荘
祷友会	紅山荘
香川県社会福祉事業団	香川県ふじみ園
萬象園	萬象園
博安会	たるみ荘
厚仁会	珠光園
うぶすな会	丸亀さんさん荘
丸亀市民生委員児童委員協議会連合会	
丸亀市社会福祉協議会	

①支援実績

（単位：件／円）

内容	件数	金額
現物給付（家賃）	2	168,970
入居債務保証支援モデル事業（更新分）	2	

②「なんでもまるっと相談会」の開催

普段のくらしの中で起こる、ちょっとした困りごとや今後に備えて知っておきたいことなど、「どこに相談すればいいかわからない」「気軽に聞けるところがあれば」という住民からの声があり、現在市内２つのコミュニティセンターで参画法人、民生委員児童委員と連携を図り実施しました。

地区		内容	場所
城乾	毎月第２金曜日	なんでも相談	コミュニティセンター
飯野	奇数月	相談機能付きふれあいカフェ	コミュニティセンター

③おもいやりネット丸亀（地域ネットワーク会議）

本年度は、昨年度から引き続き「防災」をテーマとして、参画法人とのネットワーク会議で災害への備えについて意見を交わしました。また、能登半島地震における災害派遣福祉チームの活動報告や福祉避難所の役割等について情報共有を図りました。

日付	内容	場所
R6. 4. 23	<ul style="list-style-type: none"> ○事例検討 ○令和6年度おもいやりネット丸亀のテーマ ○令和6年度「おもいやりネットワーク」10周年 	ひまわりセンター
9. 6	<ul style="list-style-type: none"> ○香川おもいやりネットワーク事業 ○能登半島地震における災害福祉活動の現状報告 ○グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・減災のために一緒に取り組めること 	ひまわりセンター
11. 20	<ul style="list-style-type: none"> ○能登半島地震における災害派遣福祉チームDWATの活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・「香川県災害派遣福祉チーム（香川DWAT）」 ・「令和6年能登半島地震災害支援からの考察」 ○福祉避難所の役割や被災後の流れ <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉避難所の整備について」 ○グループワーク 	ひまわりセンター

重点項目 8. 成年後見推進事業（後見センターまるがめ）

（１）法人後見推進事業

判断能力が不十分な方（認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など）の権利や財産を守り、生活支援を目的とした成年後見制度に法人組織として取り組みました。

毎月第4水曜日にひまわりセンターにおいて弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門職で組織された「後見センターまるがめ運営委員会」を定期開催し、中核機関としての受任調整を行うとともに、本会の法人後見事業に関する状況報告を行い、指導・助言をいただくことで確実な事業実施に努めました。（協議案件なしの場合は非開催）

①後見センターまるがめ運営委員会

（単位：名）

日付	内容	出席委員
R6. 4. 24	議案 ○受任調整ケース検討（1件：親族申立） ○市民後見人候補者と引継ぎ案件（1件）	8
	報告 ○受任調整ケース経過報告（1件） ○後見センターまるがめ相談状況（5件） ○後見支援状況（法人後見26件・市民後見3件）	
5. 22	議案 ○受任調整ケース検討（1件：親族申立） ○受任ケース相談（1件：保佐人）	8
	報告 ○後見センターまるがめ相談状況（4件） ○後見支援状況（法人後見27件・市民後見3件）	
9. 2	議案 ○受任調整ケース検討（1件：市長申立）	8
	報告 ○後見センターまるがめ相談状況（20件） ○後見支援状況（法人後見25件・市民後見4件）	
9. 25	議案 ○受任調整ケース検討（1件：市長申立）	9
	報告 ○後見支援状況（法人後見25件・市民後見4件）	
11. 27	議案 ○受任調整ケース検討（1件：市長申立）	9
	報告 ○後見センターまるがめ相談状況（10件） ○後見支援状況（法人後見26件・市民後見4件）	
12. 25	議案 ○受任調整ケース検討（3件：市長申立2件、本人申立1件）	8
	報告 ○後見支援状況（法人後見26件・市民後見4件）	
R7. 2. 7	議案 ○受任調整ケース検討（1件・本人申立）	9
	報告 ○後見支援状況（法人後見26件・市民後見4件）	

②ケース検討会

後見センターまるがめ運営委員会における受任調整ケースの情報共有や課題整理を目的に、令和5年12月から地域包括支援センターや福祉課の担当者レベルでのケース検討会を実施し、本年度は11回の検討会を行いました。事前に担当者同士が情報共有することで、後見センターまるがめ運営委員会での議論をスムーズ進めることができました。

③丸亀市成年後見利用促進協議会

(単位：名)

日付	内容	出席委員	場所
R6. 8. 22	○身寄りのない人の支援に関するアンケート報告 (対象9団体：四国税理士会、香川県社会福祉士会、香川県医療ソーシャルワーカー協会、中讃西部自立支援協議会、丸亀市医師会、丸亀市老人福祉施設、丸亀市民生委員児童委員協議会連合会、百十四銀行丸亀支店、丸亀市社会福祉協議会) ○成年後見制度利用促進に係る取組状況等について (香川県社協から厚労省資料に基づく報告)	13	ひまわりセンター
R7. 2. 20	○丸亀市成年後見制度利用支援事業実施要綱の改正 ○身寄りのない人の支援に関する事例説明 ○香川県社協からの説明 ・市民後見人の広域での活動のあり方について ・意思決定支援について ・身寄りのない人等を支える仕組みづくりについて	13	ひまわりセンター

④法人後見新規受任内容

令和6年度は7件の新規受任（在宅3件、施設3件、病院1件）を受け、身上監護・財産管理を行いました。年度末の受任状況は、法人後見28件、市民後見（後見監督）3件となりました。

No.	受任開始（登記日）	類型	性別	年齢	居所	申立者
1	Iさん R6. 4. 11	保佐	男	73歳	在宅	親族申立
2	Tさん R6. 6. 3	後見	男	75歳	施設	親族申立（司法書士）
3	Iさん R6. 9. 30	後見	男	88歳	施設	市長申立
4	Oさん R6. 10. 18	後見	男	76歳	病院	市長申立
5	Dさん R7. 2. 3	後見	男	75歳	在宅	市長申立
6	Mさん R7. 3. 6	保佐	女	81歳	在宅	市長申立
7	Tさん R7. 3. 21	補助	男	26歳	施設	本人申立

⑤法人後見利用状況（各月末時）※死後事務手続中を含む

(単位：名)

	R5年度末	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	25	26	26	25	25	24	24	26	26	26	28	29	28

⑥市民後見（後見監督）利用状況（各月末時）※死後事務手続中を含む（単位：名）

	R5 年度末	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3

⑦相談件数・対応件数（単位：件）

	R5 年度末	合計
相談件数	71	53
対応件数	144	87

相談経路		主な相談内容		つなぎ先	
本人・親族・知人	35	成年後見事業（市民後見等）	46	相談（専門職・法律相談）	19
施設・相談支援事業所等	9	今後の生活設計（終活等）	13	公的機関（法務局、家裁等）	14
病院MSW	4	日常生活自立支援事業	8	後見センターまるがめ	13
包括支援センター	3	家族の問題（相続等）	5	市行政（包括、福祉課等）	10
その他（JA、大家）	2	制度サービス（障害福祉）	2	民間機関（銀行、医療等）	6
		権利擁護（虐待）		その他（日自事業等）	6
	53		74		68

（２）市民後見推進事業

丸亀市では、これまで３回の市民後見人養成を行い、現在２２名が登録し、３名が市民後見人として選任され活動しています。また市民後見人候補者については、法人後見支援員及び日常生活自立支援事業生活支援員として活動することで実践力を高めています。

市民後見人等フォローアップ研修は年６回開催しており、うち２回は坂出市との合同研修を継続しています。本年度は、講師の司法書士から、後見活動で取り扱う戸籍・住民票について、戸籍の種類やどのような場合に取得するのか等の解説を受けました。受講後アンケートでは「登録型本人通知制度の申請を行った。」「相続登記の義務化もあり興味深い内容ではあるが難しいイメージがあった。しかし、事例やユーモアも交えた講義で理解しやすかった。」といった感想がありました。

今後も実務的な内容を取り入れ、適正な後見活動が行えるよう努めます。



坂出市市民後見人等との合同研修会



本市市民後見人による実践報告会

①市民後見人フォローアップ研修会

(単位：名)

日付	内容	参加者	場所
毎月 1 回	法人後見支援員活動・訪問での現場実習	随時	ひまわりセンター
R6. 5. 15	【講義】 市民後見人活動に関する家庭裁判所の取組について 【講師】 高松家庭裁判所丸亀支部 主任書記官 藤田 哲也 氏	12	飯山総合保健福祉センター
6. 14	【講義】 認知症サポーター養成講座【市民後見人編】 【講師】 丸亀市健康福祉部高齢者支援課 地域包括支援センター	11	ひまわりセンター
8. 1	【講義】 ACP「終活 エンディング」を考える レツトークカードで考え・語る～自分らしい生き方～ 【講師】 香川県立保健医療大学 副学長・教授 片山 陽子 氏	8	ひまわりセンター
9. 11	【講義】 自然災害と後見活動 【講師】 公益社団法人成年後見センター・ リーガルサポート災害対策委員会 司法書士 貫洞 厚 氏	7	坂出 グランド ホテル
12. 17	【講義】 成年後見活動に関係する戸籍、住民票等について 【講師】 公益社団法人成年後見センター・ リーガルサポートかがわ 司法書士 大塚 昭男 氏	10	ひまわりセンター
R7. 2. 21	【報告】 市民後見人の実践報告 【報告者】 市民後見人 三井 英子 氏・亀山 正貴 氏 【助言者】 司法書士 大塚 昭男 氏 社会福祉士 鎌倉 克英 氏	10	ひまわりセンター

②成年後見制度・市民後見人等の広報啓発

成年後見制度の認知度向上やさらなる利用促進のため、啓発講演会や支援者向け勉強会、成年後見制度専門職相談を開催しました。

啓発講演会では、市民が成年後見制度に関心をもてるよう「ACP 終活 エンディングを考える」をテーマとしました。自分の価値観を明確化するカードゲームを通じ、自分らしい人生を生きるためにどのようなことを備えるのか、等を考えました。選択したカードをグループ内で話し合い、参加者から自分の意外な価値観を見出すことができた等、充実した研修となりました。

行政・福祉関係者向けには、利用者支援における支援者として大切にしたい留意点について勉強会を開催し、相談援助の基本に立ち返り、学び直しの機会となりました。

③会議・研修会参加状況

日付	内容	場所
R6. 4. 25	令和6年度権利擁護担当者会	香川県社会福祉 総合センター
7. 9	令和6年度第1回中讃西部地域自立支援協議会 精神保健福祉部会	善通寺市役所
7. 22 R7. 3. 24	令和6年度権利擁護中核機関等連絡会議	香川県社会福祉 総合センター
9. 6	市民後見人交流会	源内音楽ホール
R6. 9~ 2 R6. 10. 1 ~10. 2	令和6年度成年後見制度利用促進体制整備研修	オンライン
9. 20 11. 15	持続可能な権利擁護モデル事業連絡会	オンライン
10. 29	令和6年度市町村協権利擁護担当者会議	アイパル香川
11. 1	市民後見人の広域的活動支援を考えるワーキング	アイパル香川
11. 22	家事関係機関と家庭裁判所との連絡協議会	オンライン
12. 19	令和6年度「意思決定支援研修会」 及び「成年後見制度市町長申立に係る研修会」	県社会福祉総合 センター

④視察研修受入れ・事業報告状況

日付	内容	場所
R6. 4. 17	善通寺社会福祉協議会視察研修	ひまわりセンター
11. 15	福祉サービス利用援助事業出前講座	ヒトトコ丸亀

⑤市民福祉講座

(単位：名)

日付	内容	参加者	場所
R6. 8. 1	【講義】ACP「終活 エンディング」を考える レツトークカードで考え・語る～自分らしい生き方～ 【講師】香川県立保健医療大学 副学長・教授 片山 陽子 氏	47	ひまわり センター

⑥行政・福祉関係者のための成年後見制度勉強会

(単位：名)

日付	内容	参加者	場所
R6. 10. 3	【講義】「利用者支援の考え方と留意点」 【講師】四国学院大学 社会福祉学部 教授 西谷 清美 氏	32	ひまわり センター

⑦成年後見制度専門職相談

日常生活の中で個人の権利に関わる様々な不安や心配ごとを抱えている方々の相談に応じることを目的として、専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）に成年後見制度等について気軽に相談できるよう、毎月第1・3火曜日にひまわりセンターにおいて専門職相談を実施しました。

(単位：名)

開催日	専門職	人数	開催日	専門職	人数
R6. 4. 16	社会福祉士	1	11. 5	弁 護 士	1
6. 4	社会福祉士	1	12. 17	弁 護 士	1
7. 2	司 法 書 士	2	R7. 3. 4	社会福祉士	1
7. 16	社会福祉士	1	3. 18	弁 護 士	2
9. 17	弁 護 士	1	合 計		11

【相談内容】

・成年後見制度利用の適宜 4件 ・制度概要や申立方法 7件

(3) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

香川県社会福祉協議会受託事業として、判断能力が不十分な方が適切に福祉サービスを利用できるよう支援する制度を7名の専門員と21名の生活支援員で、福祉サービスの利用手続きや料金の支払い、日常的な金銭管理などをスムーズに行えるようサポートしました。

丸亀市（福祉課、包括支援センター）、相談支援事業所、医療機関などの関係機関や本会が実施している生活困窮者自立相談支援事業、法人後見事業と連携し、本人の状況に応じた必要な支援を行いました。

①専門員・生活支援員研修会

利用者の生活状況やニーズを的確に把握し、本人の自己決定の尊重・自立支援の観点から適切な支援ができるよう、香川県社会福祉協議会が開催する研修会に参加し、対人援助の基本的な視点や知識・技術、態度の習得に努めました。

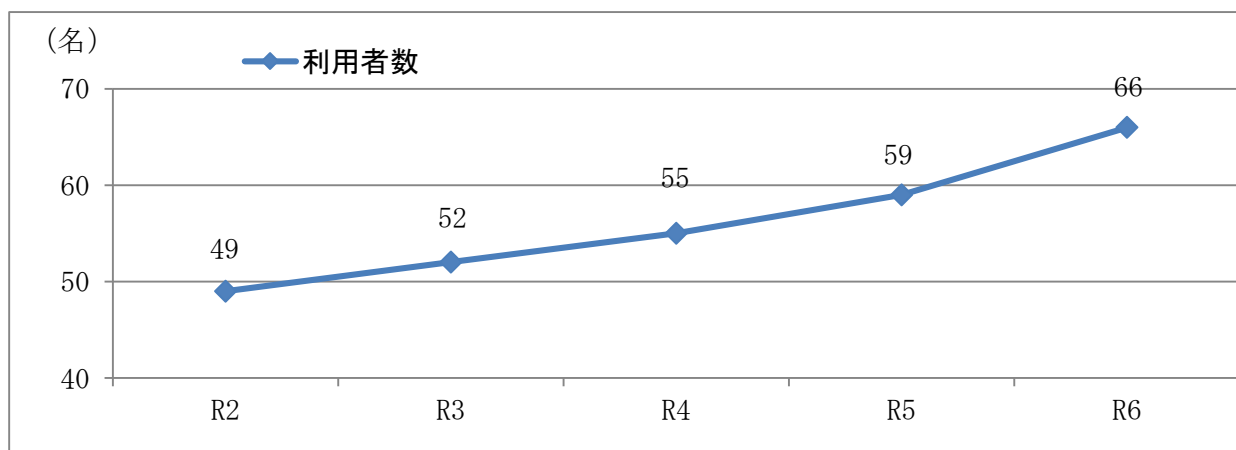
日付	内容	場所
R6. 5. 30	令和6年度日常生活自立支援事業 新規登録生活支援員研修会	香川県社会福祉 総合センター

日付	内容	場所
7. 6	日常生活自立支援事業専門員研修会	香川県社会福祉 総合センター
R7. 3. 4	令和6年度日常生活自立支援事業生活支援員等ブロック 別研修会	ひまわりセンター

②福祉サービス利用援助事業利用状況（各月末時利用者数）

（単位：名）

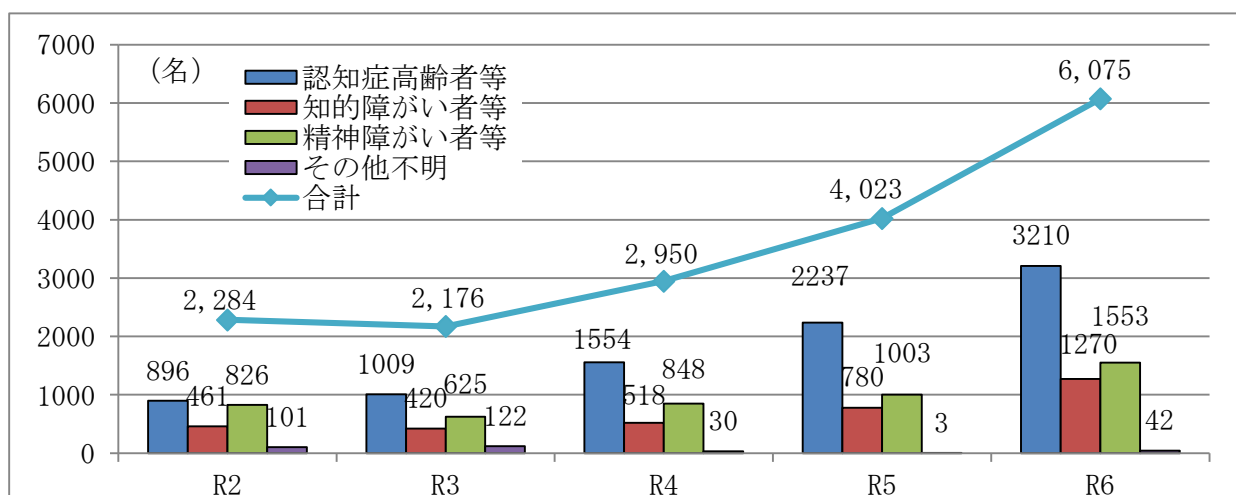
月	R5 末	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人 数	59	58	57	60	59	58	60	61	62	64	65	66	66



③相談援助件数（問合せ・援助）

（単位：件）

件数	対象区分	主な相談内容
6,075	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者等 3,210 知的障がい者等 1,270 精神障がい者等 1,553 その他、不明 42 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業に関する問い合わせ 成年後見制度等に関する問い合わせ 福祉サービスの手続き等 今後の生活設計等 医療に関する事項、保健サービスの手続き 福祉サービスに関する苦情
4,023	R5合計件数	



V. しおや保育所の安定経営

1. 通常保育

(1) 在籍児童数の状況

令和6年度は156名でスタートしました。4月の段階で公定価格の高い0歳児12名・1歳児24名・2歳児35名が在籍しました。8月には0歳児3名を受け入れ、15名の定員を満たすことができたので運営の安定化に繋がりました。

その一方、年度の途中で家庭の都合により、0歳児2名・1歳児4名・2歳児4名・3歳児1名・4歳児1名・5歳児2名、合計14名が断続的に退所し、入退所の多い年度であったと言えます。最終的に153名で令和7度を終わりました。

(単位：名)

年 齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0 歳児	12	12	12	12	15	14	15	15	15	14	14	14
1 歳児	24	25	25	25	23	25	25	25	25	25	25	24
2 歳児	35	36	36	36	36	36	35	35	33	33	33	33
3 歳児	29	29	29	29	29	29	28	28	28	28	28	28
4 歳児	26	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	25
5 歳児	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29
合 計	156	158	158	157	157	158	157	157	155	154	154	153

(単位：名)

4 月 1 日時点の 0 歳児受入状況	R3	R4	R5	R6
	13	9	8	12

(2) 土曜保育の状況

昨年度から、土曜保育の利用申し込みに必要な就労証明書の提出を年1回にしたことにより保護者の利便性の向上と保育所の事務処理の効率化ができました。

土曜保育担当保育士確保の難しさから、毎月第1・第3・第5土曜日は7時から18時、第2・第4土曜日は7時から12時30分までの半日保育という実施に対しては、保護者からご理解ご協力をいただいています。このような状況ではありますが、保育を必要としている保護者のニーズに可能な限り応えるため、入所年度の早い児童から優先的に土曜保育受け入れを実施すると共に、保護者の疾病や入院、急な仕事などの場合にも対応しています。

利用人数の減少にあたっては、親子で過ごす時間が確保できるような就労をするという保護者の意識も反映されています。

(単位：名)

利用延べ人数	R3	R4	R5	R6
	156	104	94	83

2. 特別保育

(1) 一時預かり事業

保育士不足により、平成30年度から一時預かり担当の保育士を配置できず、事業を休止しています。国の新しい政策である『こども誰でも通園制度』への対応も予想されるため、再開の目途は立っていません。

(2) 延長保育事業（有料）

短時間保育における前延長・後延長は急な残業や諸事情が発生した時に利用できます。

また、通常保育でお迎えの時間に間に合わず困っている保護者のニーズに対応するため、延長保育を実施しています。延長保育を利用する子ども達は一人一人の気持ちに寄り添い、温かく家庭的な保育を心がける共に、18時以降は軽食の提供を行っています。

利用人数は減少の傾向にありますが、18時以降の延長保育については、時には延長保育終了時刻の19時近くのお迎えになる家庭もあります。長時間の保育になるので、担当保育士は子どもが不安にならないように優しく関わって過ごすと共に、お迎えに来た保護者には一日の勤務に対する労いの言葉や子どもの様子を伝えて連携を取ってきました。

(単位：名)

	利用区分 (※)		利用申し込み人数	利用延べ人数
R5	標準時間	18:00～19:00	44	611
	短時間（前延長）	07:00～08:30	8	27
	短時間（後延長）	16:30～18:00	11	57
	合 計		63	695
R6	標準時間	18:00～19:00	42	509
	短時間（前延長）	07:00～08:30	6	21
	短時間（後延長）	16:30～18:00	14	28
	合 計		62	558

※各児童の保育必要量により区分されています。

(3) 障害児保育事業

令和6年度は2名の加配保育士を配置し、発達障がい等特別な配慮を要する子ども一人一人の状態に合わせたクラス編成をしました。しかし、新年度の保育が始まってすぐに子どもの発達の特性から加配保育士を必要という事態が発生しました。丸亀市発達相談支援事業「巡回相談」（年4回）でその子どもの様子を見て頂くと共に、丸亀市幼保運営課の方に入所申し込み時の保護者からの聞き取りと子どもの発達状況の把握を詳しく行い、保育所に必ず事前に情報提供をして頂くようお願いをしました。

また、言語聴覚士に子どもを見て頂き（年2回）、子どもの発音や言葉の遅れに早く気づき、適切に子ども達を支援していく体制作りにも努めました。そこで指導を受けたことは、担任保育士が日々の保育にも取り入れて役立てることができました。

重点項目 3. 地域貢献事業

令和6年度の特筆すべき地域貢献事業は『四園交流活動』と『地域の高齢者を招待したクリスマス会』の実施です。

『四園交流活動』においては、城坤校区のしおや保育所・城坤幼稚園・金倉保育所・ニチイキッズ六郷保育園が交替で各園において交流活動をしてきました。年3回の活動を通して、子ども達が運動遊び等を楽しむことに加え、職員同士も就学に向けて話し合えました。そして、2・3回目の活動では城坤小学校の校長先生・教頭先生に参加して頂き、入学に向けて励ましの言葉を頂けたことは大きな成果です。今後もこのような人事交流を続けていきます。

『地域の高齢者を招待したクリスマス会』では“季節の行事と一緒に楽しみたい”というテーマをもって取り組みました。当日は、子ども達が歌うクリスマスソングやダンスを見てもらったり、みんなでサークルダンスをしたりしました。参加した方から「我が子が幼い頃のことを思い出しました」と嬉しい感想を頂きました。

どちらの活動も城坤地区を広く使って参加者全員が楽しみ、しおや保育所以外の友達や職員、高齢者の方と交流できたことでたくさんの人が見守ってくれているという安心感を得ることができました。このような活動により、『保育所が好き・小学校が好き・ふるさと城坤（丸亀）が好き』という気持ちに繋がりました。

日 付	行事内容
R6. 4. 19	親子遠足（5歳児）
5. 15	四園交流活動 （年3回 城坤幼稚園・金倉保育所・ニチイキッズ六郷保育園との交流活動）
5. 22	おはなし会 （地域のボランティア講師 年4回）
5. 29	サイエンス遊び （地域のボランティア講師 年2回）
6. 9	城乾春祭り （城乾コミュニティ）
7. 20	納涼の夕べ
8. 22	保育士1日体験（中学生ボランティア）



四園交流活動

日 付	行事内容
10. 16	三菱電機 野外教室『ビオトープ』
10. 17	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会
12. 24	クリスマス会（地域の高齢者をご招待）
R7. 1. 14	大根抜き（飯山町）
1. 24	社会見学（北消防署 見学）
2. 21	ひなまつり茶会 （地域のボランティア講師）
3. 2	ふれあい城坤春まつり



クリスマス会

重点項目 4. 多文化共事業

令和6年度しおや保育所には、6カ国（ペルー・エクアドル・中国・ベトナム・タイ・フィリピン）、14家庭、14名の外国籍の子どもが在籍しました。

幼い頃から自分の国籍とは違う友達の言葉や文化にふれながら過ごせるしおや保育所は、お互いを認め合うことを学べる素晴らしい環境だと思います。保育士が外国籍の子ども達に丁寧に関わったり、保護者の方と積極的に保育所生活や子育てのことについて話し合ったりすることでみんなのモデルとなるように努めています。

開所以来続けて取り組んでいる人権集会『プラタナスのつどい』では、それぞれの国の挨拶に使われる言葉や生活様式といった異なる文化について学ぶことができました。また、5歳児は保育室に地球儀を置いて、いろいろな国の場所を覚えたり、世界にはたくさんの国があると興味をもったりできるようにしています。

外国籍の保護者の日本語習得度は一人一人違います。令和4年度から取り入れている『指さしコミュニケーション（しおや保育所版）』は、外国籍家庭の子どもが入所する際、保護者と一緒に絵を見ながら話を進めていくことができるのでとても役立っています。伝えたいことを絵を通して伝え、分かり合えると保育をする上で大切な信頼関係が築き易くなるのでこれからも活用していきたいです。



指さしコミュニケーションシート



外国籍の友達との交流

重点項目 5. しおや保育所あり方検討

（1）しおや保育所リーダーミーティングの開催

保育所での問題点や解決策の検討・情報共有等を行い、保育所を安定経営していくための話し合いをしています。より具体的に協議するため、本会事務局（局長・担当者）と所長、副所長、主任、保育・給食リーダーが毎月1度のミーティングに参加しています。

令和6年度は、参加者が議題に対して一人1回は必ず自分の考えを発表することを大切にして取り組んできました。このことにより、主任、保育・給食リーダーがそれぞれのクラスや職員会議において職員の先頭に立って発言するようになり、一人一人のキャリアアップに繋がったと感じています。

<主な成果>

- ・保育業務のICT化（コドモンでの年間指導計画・月案・日誌・経過記録の入力導入）
- ・新勤怠システムの導入と新シフトの運用
- ・新任研修
- ・職員採用活動（正規保育士を4名採用）
- ・支援を必要とする子どもの対応について（保護者との信頼関係の構築）
- ・外国籍家庭の子どもや保護者の支援

（２）保護者会との連携

保護者会運営委員会の皆様は、子ども達に“楽しい夏の経験をさせてあげたい”という願いをもって納涼の夕べの運営をしてくれました。運営面では苦勞もありましたが、その積極的な姿勢により子ども達が楽しい夏の夕暮れのひとときを過ごせました。また、一生懸命する運営委員の方の姿に共感し、自ら進んで手伝いをしてくれる保護者もいました。みんなで一つの目標に向かうことの素晴らしさを子ども達に伝えらえる行事になりました。

また、令和6年度は物価高に対応するため保護者会費が300円から500円になりました。保護者の皆様が値上げの提案に賛成してくれたことにより、大きな混乱なく保護者会の運営をすることができました。値上げ分については、物価高への対応だけでなく、運動会のお土産やクリスマスプレゼントにおいて子どもに還元することができました。また、日頃の保育に使える玩具も購入して頂いたのでこれから活用して楽しい保育をしていきます。



Ⅲ. 介護事業グループの安定経営

重点項目 1. 介護保険事業

令和6年度の介護報酬改定に伴い、新たな加算体系のもとで「処遇改善加算Ⅰ」を取得しました。これにより、介護職員の賃金引き上げや各種手当の見直しを行い、職員の処遇改善に取り組むことができました。

また、重層的支援体制の強化に向けて、地区担当の社協職員として、地区民生委員・児童委員協議会や地域福祉ワークショップ（座談会）に出席し、地域との連携を深めながら、さまざまな生活課題に向き合い、その解決に取り組むことができました。

（１）指定訪問介護・第一号訪問事業（ホームヘルパー）

訪問介護利用者が安心して安全に、住み慣れた地域で生活を継続できるよう、要介護・要支援の方々に対してケアプランに基づいた介護サービスを提供しました。

サービス提供責任者は、目標設定数の達成を目指し、新規利用者の受け入れに積極的に取り組みました。新規利用者に対しては、特に「社協らしい」サービスの提供を意識し、他機関と十分に連携を図りながらサービスを実施しました。

また、職員によるスマートフォンでの活動記録入力が定着したことで、職員間の申し送りや業務内容の確認、介護請求業務の効率化、記録簿作成などがスムーズに行えるようになりました。

さらに、非定型的パートタイム介護員の募集を積極的に行い、前年度の4名に続き、本年度も新たに3名を採用しました。現在在職中の職員の高齢化を踏まえ、今後も引き続き積極的な採用を進め、効率的な運営に努めてまいります。

利用状況

（単位：名／時間）

年度		R2	R3	R4	R5	R6
実利用者 延べ数	要介護	631	625	588	604	669
	要支援	974	1,005	1,037	1,100	1,170
合 計		1,605	1,630	1,625	1,704	1,839
サービス提供 延べ時間	要介護	6,900.4	5,943.2	5,997.8	5,650.0	6,589.0
	要支援	5,272.0	5,210.5	5,847.3	5,276.0	5,513.0
合 計		12,172.4	11,153.7	11,845.1	10,926.0	12,102.0

（２）指定居宅介護支援事業（ケアマネジャー）

ケアマネジャーは、利用者および介護者のニーズを丁寧に聴き取り、そのニーズに沿ったアセスメントを実施し、利用者本位のサービスを提案しました。

また、訪問の中で複合的な課題が見つかった場合には、医療機関や市の地域包括支援センター、高齢者支援課、福祉課など、さまざまな関係機関と連携を図り、重層的支援体制の整備を意識しながら、世帯全体への支援にも取り組みました。

毎週、事業所内でケアマネジャー会議を開催し、職員間での情報共有を図るとともに、目標

件数の確認を行い、ケアマネジャーの資質向上と安定した事業運営に努めました。

さらに、他事業所との合同研修会や医師会が主催する多職種連絡会にも積極的に参加し、ケアマネジャーの専門性と対応力の向上を図りました。

利用状況

(単位：名)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	1,942	1,746	1,658	1,642	1,852

(3) 介護予防支援事業（介護予防ケアマネジャー）

要介護から要支援へと認定区分が変更となるケースがあることから、利用者の状況や意向を丁寧に確認したうえで、市から介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務を受託しました。

要支援者が本来持っている機能を尊重し、不足している部分を必要なサービスで補いながら、利用者が安心して生活を送れるよう、「利用者本位」の姿勢を常に念頭に置いて支援を行いました。

利用状況

(単位：名)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	230	207	208	278	320

2. ホームヘルプサービス事業

丸亀市より高齢者・障がい者（児）・子育てに関する事業を受託し、必要とされる世帯に対して家事援助などの支援を行いました。

また、介護保険制度の適用範囲を超えるサービスについては、利用者の要望に応じて介護保険外訪問介護サービスを提供しました。

(1) 老人ホームヘルプサービス事業

介護保険制度の対象とならない、おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者などに対しては、自立した生活の促進および要介護状態への進行予防を目的に、日常生活の援助を「軽度生活援助事業」として提供しました。

また、社会適応が困難な方に対しては、同様に自立生活の促進と要介護状態への進行予防を目的に、訪問による日常生活への指導・支援を行う「生活管理指導員派遣事業」としてサービスを提供しました。

利用者に異変が見られた場合には、市高齢者支援課と連携を図り、適切な対応に努めています。

①軽度生活援助事業利用状況

(単位：名／回)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	139	146	79	72	74
サービス提供延べ回数	663	719	394	354	317

②生活管理指導員派遣事業利用状況

(単位：名／回)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	173	165	177	152	143
サービス提供延べ回数	885	840	761	627	603

(2) 子育てホームヘルプサービス

出産後等のご家庭から希望があれば、市子育て支援課や利用者の意向を聞きながら訪問介護員の派遣を行い、家事負担軽減のため掃除・調理等のサービスを提供しました。

利用状況

(単位：名)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	14	6	17	15	8
サービス提供延べ時間	122.0	37.0	88.0	68.0	36.0

(3) 介護保険外訪問介護サービス事業

介護保険制度の適用外となるサービスについては、「介護保険外訪問介護サービス事業」として実施しました。今後も、介護保険サービスと併用することで、地域で安心して生活を送れるよう支援を続けていきます。

制度では対応しきれない多様なニーズがあるため、提供時間は増加傾向にあります。

利用状況

(単位：名)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	55	82	51	42	48
サービス提供延べ時間	89.5	217.0	172.0	208.5	402.25

重点項目 3. 障害福祉サービス事業

居宅介護事業では、障がい者等が地域で安心して過ごすことができるよう入浴や更衣などの身体介護、掃除や調理、買物などの家事援助に加え、今年度は通院介助の支援を実施しました。

(1) 居宅介護事業（障がい者ホームヘルパー）

利用状況

(単位：名／時間)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	397	402	395	355	341
サービス提供延べ時間	4,870.5	5,402.8	4,497.75	3,917.75	4098.67

（２）重度訪問介護事業（障がい者ホームヘルパー）

利用状況

（単位：名／時間）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	－	－	－	－	－
サービス提供延べ時間	－	－	－	－	－

（３）同行援護事業（視覚障がい者ガイドヘルパー）

利用状況

（単位：名／時間）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	31	26	26	25	24
サービス提供延べ時間	403.0	384.5	410.5	364.0	315.0

（４）移動支援事業（ガイドヘルパー）

利用状況

（単位：名／時間）

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実利用者延べ数	23	22	21	21	19
サービス提供延べ時間	76.5	103.5	98.5	85.2	91.0

４．研修会の実施・参加

オンライン研修が定着し、毎月行う内部研修にて職員の情報共有、資質向上を行いました。
また、オンライン参加率は毎回向上しており、できなかった職員は、ビデオ録画で、毎月見てもらうように徹底しました。

５．福祉サービス苦情解決事業

今年度は、４件の苦情相談が寄せられ、職員の相談時の対応や服務・交通規律違反などの指摘がありました。これらの問題に対処するため、職員と情報を共有し、注意喚起を行い、事故の未然防止のための研修を実施しました。

今後も、苦情が発生した際には、その事実を誠実に受け止め、適切な対応を心がけ、利用者や地域の信頼を築いていく努力を継続していきます。



IV. 経営企画グループ

重点項目

1. 福祉人材の育成と確保

社協の組織・事業の基盤強化を進めるうえで、人材確保・育成・定着は重要課題です。そこで、小中学校と連携したふくし出前講座の開催や職場体験学習、実習生の受入れや養成校等との関係づくりに努めるとともに、人材確保につながるよう若い世代向けに SNS 等で積極的に情報発信しました。令和6年度は、社会人経験者の採用試験にも注力して、事務局4名と保育士4名の正規職員を採用することができました。

本会の使命は、「ふだんの暮らしを支える輪をつくる」こと、またそれを目指して協力的に業務を進められるよう、人材育成基本方針に基づく研修や面談を行いました。

(1) ふくし出前講座

(単位：回)

講座名	回数	目的
やさしさ配慮講座 ～障がい者・高齢者疑似体験～ 他	31	○地域住民、各種団体等を対象に、社協の業務や福祉の制度について知ってもらう。 ○アイマスクや車いす体験を通じて障がい者や高齢者に対する理解を深める。 ○多様性を認め、地域で共に生きていくことを実感する。

(2) 実習生等の受け入れ

(単位：名)

実習名	人数	学校名
ソーシャルワーク実習（社会福祉士）	4	四国学院大学・ノートルダム清心女子大学 美作大学・高知県立大学
中学生職場体験	4	丸亀市立南中学校

重点項目

2. 持続可能な法人運営

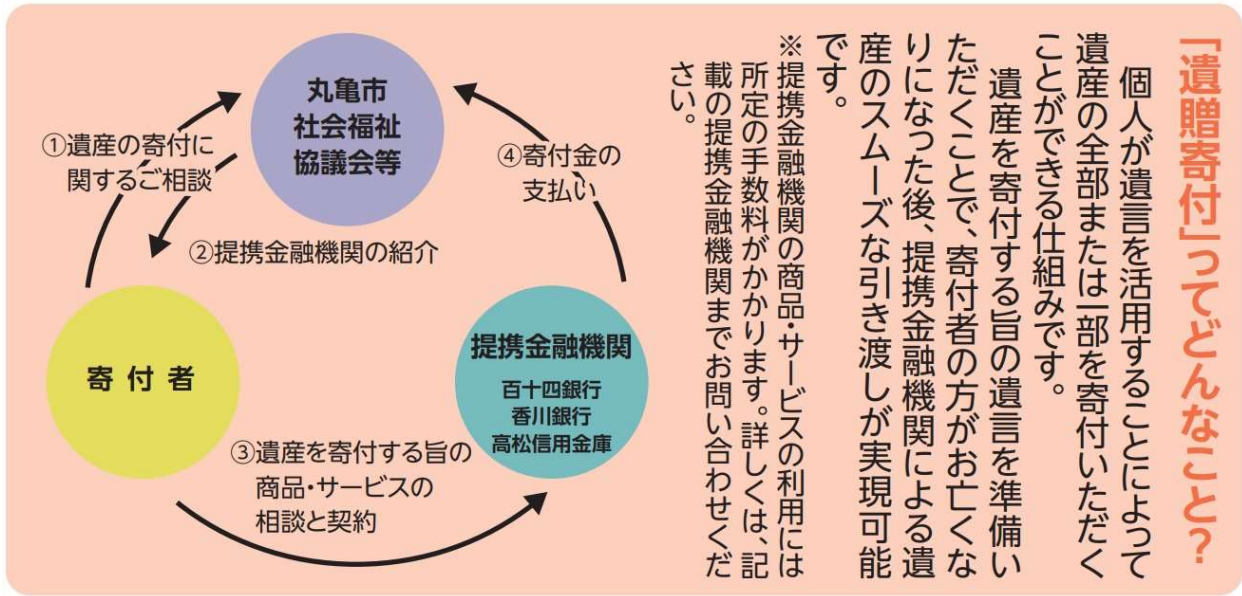
コストの削減など法人運営・組織・事務局体制・人事・業務全般にわたる見直しに努める中で、勤怠管理システムと給与システムを導入し業務の効率化が図れました。安定的な自主財源の確保のため、新たに社協の公式キャラクターオルデのフィギュアを作成し、丸亀城の売店等で販売促進に努めます。また、香川県社協、県内市町社協と共に、金融機関との「遺贈寄付」に関する協定を締結し、「遺贈寄付」を希望する方の意思を将来へつなぐことのできる仕組みを整えました。



オルデのフィギュア



遺贈寄付の仕組み図



令和6年12月（No.73）かけはしに掲載し市民へ周知しました。

（１）助成金等の状況

本会では、国や福祉財団等が推進する施策に応じた助成金や補助金を重要な財源の一つとして積極的に活用しています。受給するためには、適切な労働環境の改善、体制づくりなどが厳しく審査されるため、法律の改正や申請条件の変更など最新情報の収集に努めています。

【助成金】

②2024年度「社会福祉助成金」みずほ福祉助成財団

障がい者福祉サービスの充実を図るため、市内全域(山間部・島しょ部含む)を訪問する事業に活用するための車両購入費助成



(単位：円)

助成金の名称	R6
2024 年度「社会福祉助成金」・車輛購入費	1, 000, 000

【補助金】

① 香川県医療・福祉施設応援金（香川県医療・福祉施設応援金事務局）

原油・物価高騰による経費の増加分を公定価格等により利用者に転嫁できない中であっても、サービスを維持しながら運営を継続している医療・福祉施設の支援

(単位:円)

助成金の名称	施設	R4	R5	R6
①香川県医療・福祉施設応援金	訪問介護	100,000	100,000	100,000
	居宅介護支援	100,000	100,000	100,000
	しおや保育所	120,000	120,000	120,000
合 計		320,000	320,000	320,000

②令和6年度香川県介護人材確保事業補助金

介護テクノロジー定着支援事業としてケアマネジャーの外出先での情報共有の円滑化、事務処理の負担軽減を図る事業

(単位:円)

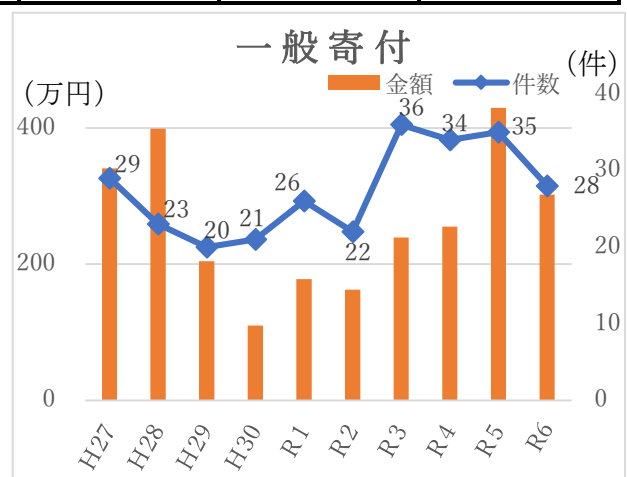
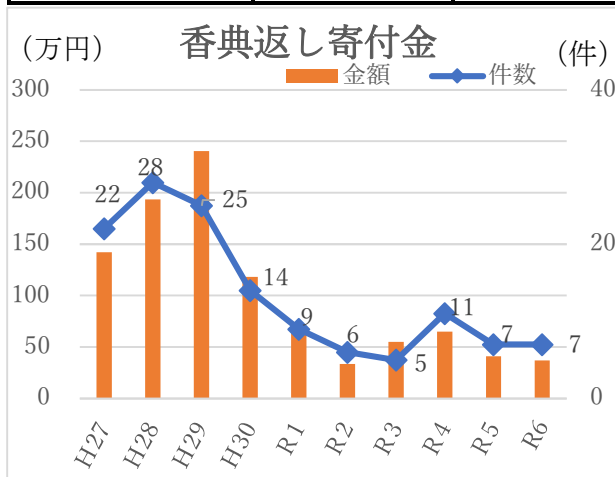
補助金の名称	R6
管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業	352,000

(2) 寄付金の状況

(単位:件/円)

目	R2	R3	R4	R5	R6
香典返し寄付金	6	5	11	7	7
	335,000	550,000	650,000	410,000	370,000
一般寄付金	22	36	34	35	28
	1,622,808	2,389,036	2,548,575	4,296,321	3,019,113
地域活性化 支援寄附金	53	-	-	-	-
	1,691,193	-	-	-	-
合 計	3,649,001	2,939,036	3,198,575	4,706,321	3,389,113

物品寄付	218	287	4	4	5
	101,885	471,138	94,511	111,367	60,500





ダイナム 様



丸亀法人会 様

(3) 会費収入状況

社会福祉協議会は、「住民主体の地域福祉の推進」を目的とする専門組織としての役割を担っています。そのため、会費は「住民主体の原則」という意味で貴重な財源です。

会員を募集し会費をいただくことで、潜在的な協力者の開拓につなげ、そこからネットワークが広がり、「暮らしやすいまちづくり」となる「強み」として捉え、企業や団体などの新規会員の開拓に努めましたが、十分な効果は得られていない状況です。

(単位：会員区分 件／円)

会員区分	R2	R3	R4	R5	R6
一般会費 (世帯)	22,855 2,285,500	22,397 2,239,700	22,112 2,211,200	21,224 2,122,400	20,986 2,098,600
賛助会費 (名)	244 460,000	248 462,000	240 451,000	240 451,000	238 449,000
団体会費 (団体)	263 1,409,000	258 1,394,000	246 1,391,000	252 1,412,000	248 1,372,000
合 計 (円)	4,154,500	4,095,700	4,053,200	3,985,400	3,919,600
前年比 (円)	18,500	△58,800	△42,500	△67,800	△65,800

(4) 自動販売機による財源確保

社会福祉事業に必要な財源を確保するため、公共施設等に飲料自動販売機を40台設置しています。本年度は、新たに地域貢献型自販機を8か所に11台設置し、300万円を福祉のまちづくりのために積み立てました。

(単位：円)

設置場所		R5 収入額	R6	
			収入額	設置台数
ボートレースまるがめ		1,605,722	1,931,800	6 台
市役所庁舎等		1,507,136	1,595,468	7 台
内 訳	市役所庁舎	432,429	384,942	2 台
	消防署	79,524	75,891	1 台
	市民ひろば	894,220	1,052,911	3 台
	丸亀城	100,963	81,724	1 台
みんながオルデ通町 (R6.7.30撤去)		51,921	21,342	—
土器川生物公園		206,905	201,722	2 台
稲田塾		62,083	53,871	1 台
四国ガス株式会社 丸亀支店		81,379	71,715	3 台
グリーンまるがめ・モーヴィまるがめ		405,048	398,225	4 台
富熊コミュニティセンター		48,380	59,908	1 台
ゆうとぴあ綾歌		36,201	34,661	1 台
ファミリー長友A棟 (土器町)		1,742	2,182	1 台
CLATTER ROOM (川西町)		41	3,030	1 台
みんなの劇場建設現場		104,138	634,756	2 台
綾歌市民総合センター (新設日 R6.3.13)		—	80,675	1 台
クリントピア丸亀 (新設日 R6.4.2・3)		—	198,995	3 台
城坤小学校 (工事事務所) (新設日 R6.4.17・19)		—	106,856	2 台
城南小学校 (工事事務所) (新設日 R6.8.1)		—	10,087	1 台
城東小学校 (工事事務所) (新設日 R6.9.1)		—	8,793	1 台
垂水小学校 (工事事務所) (新設日 R6.8.20)		—	15,017	1 台
妹尾道路 (新設日 R6.10.11)		—	14,239	1 台
城東こども園 (新設日 R7.1.27)		—	3,468	1 台
計		4,110,696	5,446,810	40 台

自販機の設置経費としては、水道光熱費412,137円、賃借料174,775円、租税公課費338,500円等の費用が必要でした。

（５）積立資産と繰越金の状況

法人全体の積立資産（退職給付引当資産は除く）は、取崩額が76,991,000円、積立額が76,566,913円となり、取崩額が積立額を424,087円上回りました。

福祉のまちづくり積立資産については、毎年約20,000,000円を取り崩しており、今後、更なる財源確保に努めてまいります。

しおや保育所事業では、委託費や物価高対策にかかる補助金等の増額に加え、保育所職員が一丸となって継続的に経営努力を行った結果、将来の施設修繕等に備えるための保育所施設・設備整備積立金に25,000,000円を積み立てることができました。

（単位：円）

積立金の名称	R4 決算額	R5 決算額	R6 決算額
財政調整積立資産	60,000,000	60,000,000	60,000,000
福祉のまちづくり積立資産	196,604,657	172,543,600	150,204,107
災害被災者及び復旧支援積立資産	31,762,643	31,762,643	31,762,643
固定資産取得及び修繕積立資産	50,312,996	50,312,996	50,312,996
介護事業安定積立資産	180,913,947	175,913,947	169,913,947
保育所施設・設備整備積立資産	35,000,000	49,000,000	74,000,000
社会福祉事業基金積立資産	3,613,843	7,046,346	9,510,727
災害被災者及び復旧支援基金積立資産	210,000	511,969	712,287
子ども食堂応援基金積立資産	1,053,443	1,524,579	1,775,286
合 計	559,471,529	548,616,080	548,191,993
前年比	7,220,600	△10,855,449	△424,087

重点項目 3. 強化発展計画の振り返りと今後の取り組み

プロジェクト委員会や所属の会議を通じ、全職員が意見を出し合いながら、それぞれの目標に向かって業務を進めていきました。

SDGs（国際連合が掲げる、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）の実現を本会の事業の基本的な方向性を示すものと位置づけ、地域共生社会の構築に向けた取り組みを推進しました。

（１）内部プロジェクト委員会の開催

（単位：回）

プロジェクト名	開催数	主な検討内容
みんなのふくし丸亀プラン推進委員会	1	○第4次福祉活動計画策定について ○高校生ワークショップについて
おもいやりネットワーク推進委員会	4	○香川おもいやりネットワーク事業10周年 ○能登半島地震における災害福祉活動 ○福祉避難所の整備について
広報編集委員会	4	○社協だより『かけはし』の編集発行

防災対策委員会	5	<ul style="list-style-type: none"> ○能登半島地震社協応援派遣状況報告 ○災害時の協働・連携体制強化研修（中讃ブロック）について ○「職員災害時緊急対応マニュアル」及び「丸亀市災害ボランティアセンター運用の手引き」の見直し
I C T化推進委員会	1	<ul style="list-style-type: none"> ○社協ホームページのリニューアル ○メールアドレスについて
重層的支援体制整備事業委員会	13	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉を推進する体制の検討 ○住民に身近な地域課題の把握 ○参加支援事業所の現状把握 ○重層的支援体制整備事業関係報告書作成・提出